

MS 362 C-M

STIHL



2 - 40 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	安全に関する重要事項.....	3
3	反発力.....	7
4	作業方法.....	8
5	カッティングアタッチメント.....	15
6	バーとチェーンの取り付け.....	16
7	チェーンの張り.....	17
8	チェーンの張り具合の点検.....	17
9	燃料.....	17
10	給油.....	18
11	チェーン オイル.....	20
12	チェーン オイルの給油.....	20
13	チェーン オイルの吐出点検.....	21
14	チェーン ブレーキ.....	21
15	冬季作業.....	22
16	電気ハンドル ヒーター.....	23
17	エンジンの始動と停止.....	23
18	作業中の注意事項.....	26
19	オイル量の調節.....	27
20	ガイド バーの保守.....	28
21	シュラウド.....	28
22	エアフィルターの掃除.....	28
23	M-Tronic.....	29
24	スパーク プラグ.....	30
25	機械の保管.....	30
26	チェーン スプロケットの点検と交換.....	31
27	ソーチェーンの整備と目立て.....	32
28	整備表.....	35
29	磨耗の低減と損傷の回避.....	36
30	主要構成部品.....	37
31	技術仕様.....	38
32	スペア パーツのご注文.....	39
33	整備と修理.....	39
34	廃棄.....	39
35	EC 適合証明書.....	39
36	アドレス.....	40

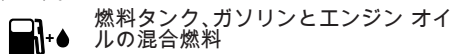
1 はじめに

この取扱説明書では STIHL チェンソーは機械と呼ばれる事もあります。

1.1 シンボル マークについて

機械に表示されているシンボル マークは、この取扱説明書で説明されています。

機械および装置のバージョンによっては、次のシンボル マークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



チェーン オイル用タンク、チェーン オイル



チェーン ブレーキの作動および解除



コースティング ブレーキ



チェーン移動方向



E マチック、チェーン オイル流量調整



ソー チェーンの張り



インテーク エア フィルター: 冬季作業



インテーク エア フィルター: 夏季作業



ハンドル ヒーティング



デコンプレッションバルブの作動



バージャー ポンプの作動

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 安全に関する重要事項



チェーンの回転が非常に速く、カッターが非常に鋭利であるため、チェーンソーで作業を行うときは、人身事故の危険を低減するために特別な安全措施が必要です。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに見られるよう安全な場所に確実に保管してください。取扱説明書を順守しないと生命を脅かすようなケガを負いやすくなります。

2.1 一般的な注意事項

現地の安全規制、基準、条例を遵守してください。

騒音を発するパワーツールの使用が、国や地域の規則によって規制されている場合があります。

この機械で初めて仕事をする人は：STIHL サービス店または経験豊富なユーザーに機械の操作方法を教えてもらうか、その専門的な研修に参加してください。

未成年者はチェーンソーを使用しないでください。

作業場所に見物人、特に子供や動物を近づけないでください。

他者およびその所有物に対して生じた事故または危険に関しては、その一切の責任をユーザーが負います。

チェーンソーを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用者が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認します。

チェーンソーで作業する人は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。激しい労働に耐えられない体調の方は、チェーンソーの使用前にかかりつけの医師に相談してください。

視界を妨げ、動作や判断を鈍らせるようなアルコールや薬品などを服用した状態では、チェーンソーを使用しないでください。

事故やケガを避けるために、天候が悪い場合（雨、雪、氷、風）は作業を延期してください。

ペースメーカーを付けている方にのみ該当する注意点：チェーンソーのイグニッションシステムは、微量の電磁界を発生します。この電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを軽減するため、ペースメーカーを装着された方は、パワーツールの使用前に掛かりつけの医師またはペースメーカーの製造元に、お問い合わせください。

2.2 用途

この機械は樹木や木製品の切断にのみ使用してください。

その他の用途のために機械を使用しないでください、事故の危険があります！

いかなる方法でも本機を改造しないでください。人身への傷害の危険性を増加させることがあります。承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては当社は一切保証を行いません。

2.3 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体に合い、身体の動きを制約しない衣服を着用してください。だぶだぶな上着ではなく、**切断防止機能付き**の身体にピッタリした作業衣を着用してください。

枝、やぶ、または機械の可動部品等に引っかかる衣服を身に付けしないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けしないでください。長髪は結んでまとめてください（スカーフ、帽子、ヘルメット等に押し込んでください）。



適切な**安全靴** - 切断防止素材が使用され、靴底が滑らず、爪先に鋼板が入った靴 - を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、EN 166 基準に準拠した確実にフィットする保護メガネまたはフェイスシールドを着用してください。保護メガネとフェイスシールドが顔のサイズに合っているか確認してください。

「自分専用」のイヤープロテクター - 例えば防音用耳栓 - を着用してください。

落下物の危険がある場所では、ヘルメットを着用してください。

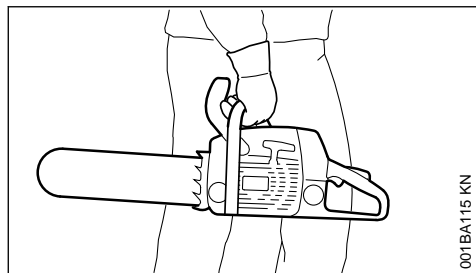


耐性素材（革等）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、作業者を保護する多様な保護装備を販売しています。

2.4 運搬

たとえ短い距離であっても、運搬前に機械の電源を切り、チェーンブレーキを掛け、チェンガードを取り付けます。それによりソーチェーンの偶発的な始動を防ぐことができます。



001BA115 KN

チェンソーは常にハンドルを保持し、高温のマフラーを身体から離し、ガイドバーを後ろ向きにして運搬してください。重度の火傷を負わないよう、本機の高温になった部品、特にマフラー表面には触れないでください。

車両で輸送する場合は、転倒、燃料漏れ、損傷を防ぐためにチェンソーを適切に固定してください。

2.5 洗浄

プラスチック製部品は、布で掃除します。強い洗剤はプラスチックを損傷することがあります。

機械から、汚れや泥を取り除いてください - これには、グリース溶剤を使わないでください。

必要に応じて換気スロットを清掃します。

機械の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強い流水で機械の部品を損傷する恐れがあります。

2.6 アクセサリー

当社が本機での使用を承認した、または技術的に同等の、ツール、ガイドバー、チェン、チェンスプロケット、またはアクセサリだけをご使用ください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。高品質ツールおよびアクセサリだけをご使用ください。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。

当社では、STIHL 純正のツール、ガイドバー、チェン、チェンスプロケット、およびアクセサリだけをご使用いただきますようお願いいたします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

2.7 燃料の給油



ガソリンは非常に簡単に引火します - 火気を近づけないでください - 燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て火災になることがあります！

燃料フィルターキャップは、過剰な圧力が徐々に抜けて、燃料が噴き出さないように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。本機に燃料をこぼしたら直ちにふき取ってください。衣服に燃料をこぼさないでください - 汚れた衣服は直ちに着替えてください。

機械は標準として、次のフィルター キャップを装備することができます。

バイヨネット式フィルター キャップ (差し込みロック)



バイヨネット式燃料タンクキャップ (差し込みロック) は正しく差し込み、止まるまで回してからバイヨネットを下ろしてください。

正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んで燃料が漏れる危険を低減します。



燃料が漏れていないか注意してください！ 燃料がこぼれたり漏れている場合は、エンジンを始動しないでください - 火傷による命の危険があります！

2.8 始動前

チェンが正しく取り付けられ、良好な状態になっているかチェックします(本取扱説明書の関連項目を参照)：

- 燃料システムに漏れがないか点検します。特にタンク キャップ、ホース接続部や手動燃料ポンプ (機械に取り付けられている) などの、目に見える部品を特に注意深く点検します。漏れや損傷がある場合は、エンジンを始動しないでください - 火災の危険性があります。再度使用する前に、チェンソーの修理をサービス店に依頼してください
- チェンブレーキや前ハンドガードが正常に作動するか点検します
- ガイドバーが正しく装着されている
- チェンが適切に張られている
- トリガーおよびトリガー ロックアウトがスムーズに作動して、放すとアイドル位置に戻らなければならない
- マスター コントロール レバーが、スムーズに STOP、0 または 0 位置に移動できるか。
- スパーク プラグ ターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします - 緩んでいる場合は火花が発生することがあり、可燃性のガスに引火する可能性があります。

- 操作部や安全装置に改造を加えないでください。
- チェンソーの安全な操作のため、ハンドルはオイルや汚れのない、乾いた清潔な状態を保ちます。
- 十分の燃料とチェン オイルがタンクに充填されていることを確認します。

人身事故の元となりますので、損傷したり、正しく取り付けられていないチェンソーは使用しないでください。

2.9 チェンソーの始動

必ず平坦な場所で作業を行ってください。常に安定した足場を確保してください。機械はしっかりと保持します - チェンが床やその他の物体と接触しないようにしてください - 回転するソーチェンのためにケガの危険があります。

チェンソーは一人で操作します。他人が作業区域内に入らないようにしてください。始動時も同様です。

チェンが切り口にあるときは、チェンソーを始動しないでください。

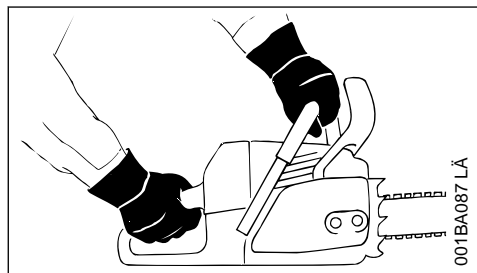
機械の給油位置から最低 3 メートル以上離れ、密閉された場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

始動前にチェン ブレーキでチェンをロックします。チェンの回転により**事故の恐れがあります**。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

2.10 作業中

足場は常に、しっかりと安全にしてください。剥いだ皮が湿っているときは特に注意してください - **滑る恐れがあります！**



必ず**両手でしっかりとチェンソーを保持**してください。左利きの場合でも右手で後ハンドルを握ります。安全操作のため、ハンドル バーとハンドルをしっかりと握ります。

差し迫った危険や緊急の場合、マスターコントロールレバーがストップスイッチを **STOP、0** また

は **0** に動かして、速やかにエンジンを停止します。

本機を運転させたまま、本機から離れないでください。

滑りやすい表面、水、雪、氷、急な斜面、でこぼこな地面、樹皮を剥がしたばかりの樹木の上では特に注意を払ってください。**滑る恐れがあります！**

切り株、根っこ、溝に注意します。**つまずく恐れがあります！**

一人だけで作業しないこと - 事故があった場合に備えて、近くに応急処置の訓練を受けた人がいて声を出せば助けに来られるようにします。切断作業現場での補助者も保護具（ヘルメット）を着用し、切断された枝が当たらないところまで下がっているようにします。

防音用耳栓を付けている場合、より大きな注意が必要です。危険を告げる声（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなるからです。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください **事故の危険があります！**

本機の使用時に発生する塵埃（おがくずなど）、気体成分、煙は健康を害する恐れがあります。粉塵が発生するときは、防塵マスクを着用してください。

エンジン運転中：スロットルトリガーを放しても、コースティング効果により チェンは短時間回転し続けます。

作業中およびチェンソーの近くでの**喫煙は避けてください。火災の危険性があります！** 燃料システムから、発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあることに、ご注意ください。

短い間隔で定期的に、および明らかな変化に気付いたときすぐに、ソーチェンを点検します：

- エンジンのスイッチを切り、ソーチェンが静止するまで待ちます
- 状態および接続部がしっかりしていることを確認します
- 目立ての状況を確認します

エンジンの運転中は、ソーチェンに絶対に触れないでください。ソーチェンに物体が挟まった場合、物体を取り除こうとする前に、直ちにエンジンを停止してください - **ケガの危険があります！**

機械をそのままにして離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。

ソーチェンを交換するには、エンジンのスイッチを切ります。エンジンが不意に始動すると、**怪我をする危険があります！**

木片、樹皮、乾燥した草木、燃料など燃えやすい素材から排気ガスや加熱されたマフラーを離してください - **火事の危険があります！** 触媒コンバータ付きマフラーは特に高温になりがちです。

チェンオイルなしでは作業をしてはいけません - オイル タンク内のオイル量を注意します。オイル タンクのオイル量が少ないときは直ちに作業を停止し、チェン オイルを補充します - 「チェン オイルの給油」および「チェンの潤滑の点検」も参照してください。

機械に強い衝撃が加わったり落下するなど、所定の負荷を越える異常な負荷がかかった場合は、作業を続ける前に、機械が良好な状態にあることを常に確認してください - 「作業開始前」も参照してください。

給油システムに漏れがないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認します。機械の動作状態が完全でない限り、絶対に継続して使用しないでください。はっきりしない場合は、サービス店に点検を依頼してください。

正しくアイドリングしているか確認して、スロットルトリガーを放したときにソーチェンが動作を停止するようにします。アイドリング設定を定期的に点検して、できるときに調整してください。アイドリング回転中にソーチェンが動き続ける場合は、STIHL サービス店に機械の修理を依頼してください。



チェンソーはエンジンが始動するとすぐに、有毒な排気を発生します。このガスは、無臭で目に見えないことがあり、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対に機械を使用しないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、くぼ地、あるいは狭い場所で作業する時には、適切な換気を確保してください - **有毒ガスを呼吸することによる命の危険があります！**

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります - **事故の恐れがあります！**

2.11 作業後

エンジン切り、チェンブレイキをかけ、チェンガードを取り付けます。

2.12 保管

機械を使用しない時は、他人に危険が及ばないように保管します。不正な使用ができないよう、機械を固定します。

機械を安全な乾燥した部屋に保管してください。

2.13 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろく病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.14 整備と修理

修理、清掃または整備作業およびチェンに対して作業を行う前に必ずエンジンを切ります。エンジンが不意に始動すると、**怪我をする危険があります！**

本機は定期的に整備する必要があります。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は、販売店に依頼してください。

当社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。STIHL 販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

高品質のスベアパーツのみを使用します。そうしないと、事故および本機の損傷の恐れがあります。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

いかなる方法でも本機を改造しないでください。人身への傷害の危険性を増加させることがあります - **事故の危険があります！**

スパークプラグ ターミナルを取り外したり、スパークプラグを緩めたまま、スターターでエンジ

ンを始動すると、シリンダー外部でイグニッションスパークが生じて**火災の危険**があるので、その前にマスターコントロールレベルを**STOP、0**または **0** に移動してください。

火気の近くで調整したり保管しないでください - 燃料を搭載していますので、**火災の恐れ**があります。

燃料キャップがしっかり閉まっていることを、定期的に点検してください。

欠陥のない、当社が承認したスパークプラグのみを使用します - 「技術仕様」を参照してください。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに問題が無いことを確認してください。

破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま、本機を使用しないでください。**火災の恐れや聴力への害があります！**

絶対に加熱されたマフラーに触れないでください - **火傷の危険があります！**

防振装置の状態は振動動作に影響します - 防振装置を定期的に点検してください。

チェーン キャッチャーを点検してください。 破損している場合は交換します。

エンジンを停止します

- チェンの張りの点検
- チェンの張りの締め直し
- チェンの交換
- 不具合の修正

目立てに関する注意事項を守ってください。 安全にかつ正しく取り扱うため、チェーンとガイドバーを完全な状態に保持します。正しく目立てをして、張りを調整し、十分に潤滑する必要があります。

チェーン、ガイドバー、チェン スプロケットを適切な時期に交換します。

クラッチ ドラムの動作状態が完全であることを定期的に確認してください。

燃料とチェーンオイルを指定された容器でのみ保存し、正しくラベル付けします。光および日光から保護された、乾燥した、涼しい、安全な場所に保管します。

チェーン ブレーキに不具合が発生した場合、機械を即座に停止します。**ケガの危険があります！**

STIHL サービス店にお問い合わせください - 不具合が改善されるまで、機械を使用しないでください。「チェーン ブレーキ」の項を参照してください。

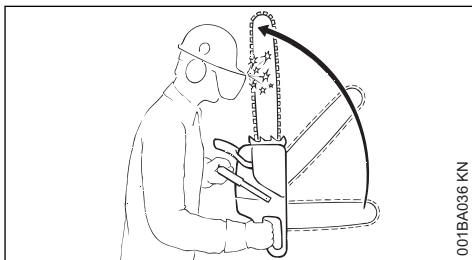
3 反発力

切断中に生じる最も一般的な反発力は、キックバック、プッシュバック、ブルインです。

3.1 キックバックの危険

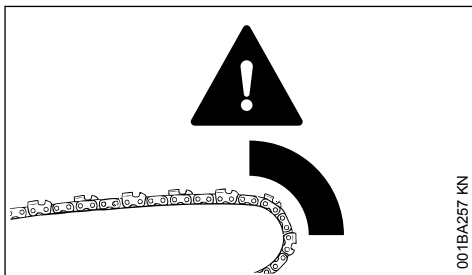


キックバックによって重傷や致命傷を負うおそれがあります。



キックバックとは、次のような状況下で、チェーンが制御できない状態で作業者に向かって唐突に跳ね返ってくる現象を指します。

3.2 キックバックが発生しやすい状況



- ガイドバー先端の上部 1/4 部分を意図せずに樹木や硬い物体に接触させた (例えば、枝払い中に別の樹木に偶発的に接触した場合)。
- 切断中にガイドバー先端部でチェーンが切り口に挟まれた。

3.3 クイックストップチェンブレーキ：

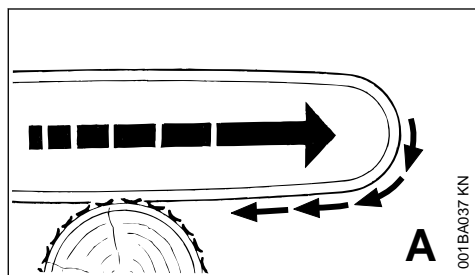
この機能は、一定の状況下でケガの危険を低減しますが、キックバック自体を防ぐことはできません。作動すると、ソーチェーンがチェンブレーキによって瞬時に停止します。

この取扱説明書の「ソーチェーン」の項を参照してください。

3.4 キックバックの危険を低減するには

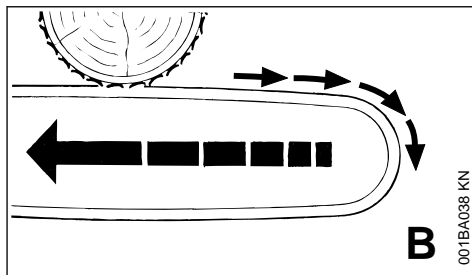
- 慎重に作業し、キックバックが起こるおそれがある状況 avoids します。
- チェンソーを両手で確実に保持し、ハンドルを着実に握ります。
- 常にフルスロットルで切断します。
- 常にガイドバー先端部の位置に注意を払います。
- バーの先端では切断しないでください。
- チェンが挟まれるおそれがあるため、細くて固い枝には特に注意してください。
- 絶対に一度に数本の枝を切断しないでください。
- 腕を伸ばしすぎないでください。
- 肩の高さより上にあるものを切断しないでください。
- 途中でまで切断した樹木を再度切断するときは、十分に注意してガイドバーを切り口に入れてください。
- 経験がない場合は、突っ込み切りは行わないでください。
- 丸太が動いたり、他の力が加わったりして切り口が閉じ、チェンが挟まるおそれがあるため、注意してください。
- 必ず適切に目立てされ、張りが適正なチェンを使用して作業を行います。デプスゲージの設定が大きすぎないか確認してください。
- キックバックを低減するソーチェンや、先端径が小さいガイドバーを使用してください。

3.5 プルイン (A)



プルインは、作業中にバー底部のチェンが突然、樹木に挟まったり、引っかかったり、樹木内の異物に当たったりしたときに発生します。チェンの反動によりチェンソーが前方に引かれます。**この危険を低減するために、必ずバンパースパイクを樹木や枝に確実に当ててください。**

3.6 プッシュバック (B)



プッシュバックは、作業中にバー上部のチェンが突然、樹木に挟まったり、引っかかったり、樹木内の異物に当たったりしたときに発生します。チェンの反動により、チェンソーが作業者的の方にまっすぐに跳ね返ってきます。**この危険を防ぐには、：**

- ガイドバーの上部が挟まる可能性がある状況に注意してください
- 切り口の中でガイドバーをねじらないでください。

3.7 特に注意が必要な状況

- 傾いた樹木
- 他の樹木の間の作業がしにくい場所に落下し、張力が加わっている樹木
- 風倒木エリアでの作業

こうした状況ではチェンソーを使用せずに、滑車装置、ケーブルウインチ、牽引装置などを使用してください。

露出している、障害物が絡まっていない樹木を引き出します。障害物のない場所で切断作業を行ってください。

枯れ木（乾燥したり、朽ち果てたり、腐食したりしている樹木）の切断には想定外の危険があります。危険の程度を識別することは、不可能ではないにせよ、容易ではありません。そうした場合は、ケーブルウインチや牽引装置などの補助用の機器を使用してください。

道路、鉄道、電線などの近くで伐倒作業を行う場合は、特に注意してください。必要に応じて警察、電力会社、鉄道会社に作業を通知してください。

4 作業方法

すべての関連作業（突っ込み切り、枝払いなど）を含む、切断および伐採作業は、特別に教育を受けたトレーニングを受けた作業者的のみが行うことができます。チェンソーを使い慣れていない作業者的はこのような作業をしてはいけません。事故の危険性が増します！

伐採作業を行う際は、伐採技術に関する国別の法律を遵守する必要があります。

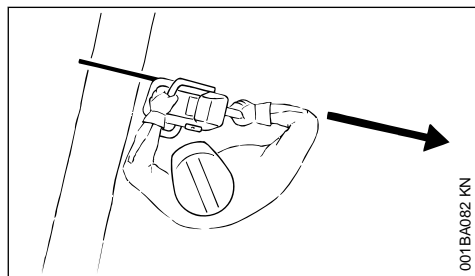
4.1 鋸断

始動(スロットルロック)ポジションでは切断作業を行わないでください。このポジションでは、エンジン回転数を調整できません。

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。他者に危険が及ばないか確認し、常に注意を怠らないでください。

初めてのユーザーには、木挽台で丸太を切断する練習をお勧めします。「細い木の切断」を参照してください。

できる限り短いガイドバーを使用します。組み合わせが適切で、お使いのチェーンソーに適合するチェン、ガイドバー、チェンスプロケットを使用してください。



身体が**カッティングアタッチメントに触れない位置**にチェーンソーを位置決めします。

必ずチェンを回転させた状態でチェーンソーを切り口から引き抜いてください。

チェーンソーは切断の目的にのみ使用してください。枝、根、他の物体をこじり上げたり、掘り起こしたりする用途向けには設計されていません。

垂れ下がっている枝を下側から切断しないでください。

低木や若木の場合は、注意してください。枝がチェーンソーによってすくい上げられ、作業者へ向かって跳ね返る可能性があります。

裂けた樹木の切断時は注意してください。**木片が飛散してケガをするおそれがあります！**

チェーンソーを異物に接触させないように注意してください。石やクギなどが飛散し、ソーチェンが損傷するおそれがあります。チェーンソーが偶発的にキックバックすることがあります - **事故が起きる危険があります！**

回転中のソーチェンが石や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、特定の条件下で燃えやすい

物質が引火するおそれがあります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合は、燃えやすい物質、乾燥した植物、低木の付近でチェーンソーを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄の森林管理事務所にお問い合わせください。



斜面では、幹の山側に立ちます。切り落とした幹が転がって落下する危険に備えてください。

高所で作業する場合：

- 常にリフトバケットから作業します。
- はしごや枝に乗っている間は、絶対に本機を使用しないでください
- 足場が不安定な場所では絶対に作業を行わないでください。
- 肩の高さより上にあるものを切断しないでください。
- 本機は絶対に片手で使用しないでください

チェーンソーをフルスロットルにして切断を開始し、バンパースパイクを樹木に確実に当て、切断を続行します。

チェーンソーによって前方に引き込まれ、バランスを失うことがあるため、バンパースパイクなしでは絶対に作業を行わないでください。常にバンパースパイクを樹木や枝に確実に当ててください。

切断が完了すると、チェーンソーは切り口内でカッティングアタッチメントによって支持されなくなります。作業者がチェーンソーの重量を支える必要があります。**制御できなくなる危険があります！**

細い樹木の切断：

- 丈夫で安定したサポート（木びき台）を使用します。
- 樹木を脚や足で抑えないでください。
- 助手に樹木を保持してもらうなどの方法では絶対に作業を行わないでください。

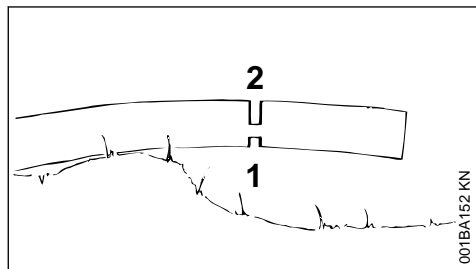
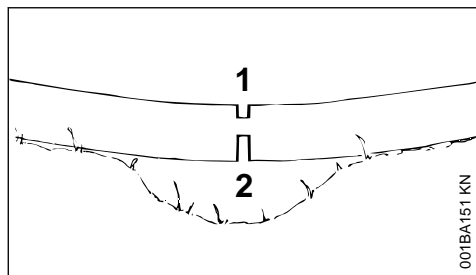
枝払い

- キックバックの少ないチェンを使用してください。

- 可能な限りチェーンソーを確実に支えて作業を行ってください。
- 幹の上に立って枝払いしないでください。
- バーの先端では切断しないでください。
- 張力がかかっている枝に注意してください。
- 絶対に一度に数本の枝を切断しないでください。

張力がかかった状態で横たわっているか、立っている樹木：

必ず正しい順序 - 最初に圧縮された側 (1)、次に張力がかかっている側 (2) - で切断し、キックバックやカッティングアタッチメントが切り口に挟まる危険性を回避します - **ケガをする危険があります！**



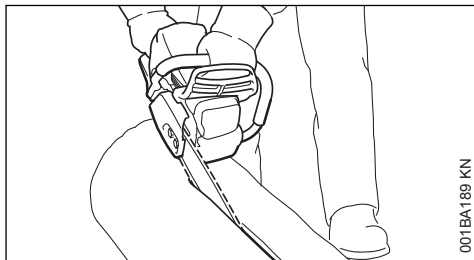
- ▶ 圧縮がかかっている側に負荷軽減カットを入れます(1)。
- ▶ 張力がかかっている側を玉切りします(2)。

下から上に向けて玉切りするとき (下側切断) は、**プッシュバック**に注意してください。

注記

ソーチェンが損傷するため、地面に横たわっている樹木を地面に触れている位置で切断しないでください。

縦引き：

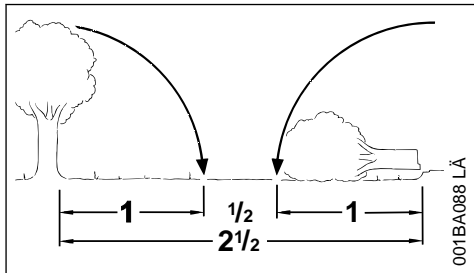


バンパースパイクを使用せずに切断する技術で、プルインのおそれがあります。ガイドバーをできるだけ浅い角度にして切り込みます。特に慎重に作業を行ってください。**キックバックが生じる危険が高まります！**

4.2 伐倒の準備

伐倒エリア内に誰もいないことを確認します - 助手は例外です。

倒木で事故が生じないように注意してください - 警告の掛け声がエンジン音でかき消されることがあります。



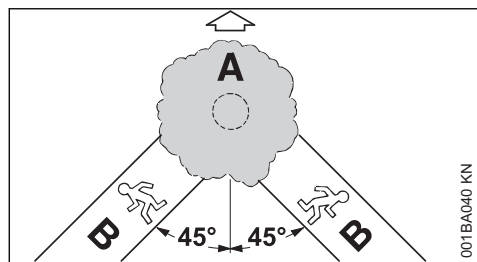
伐倒する樹木から最低でも 2.5 本分の距離を確保してください。

伐倒方向と退避路の決定

木立の中で樹木を倒す隙間を選びます。

特に次の点に注意してください：

- 自然に傾いている樹木
- 異常に枝が茂った樹木、非対称に成長した樹木、樹木の損傷
- 風向と風速 - 強風時は伐倒作業を中止してください
- 傾斜方向
- 隣接する樹木
- 雪の荷重
- 樹木の全般的な状態を考慮します - 幹の損傷または枯れ木 (もろくなったり、腐ったり、しおれたりした樹木) には特に注意してください



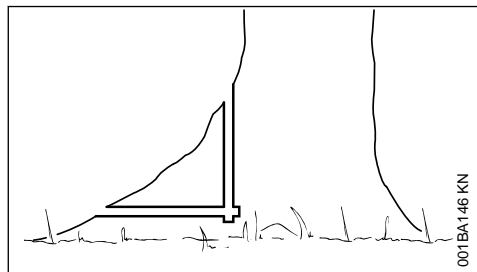
A 伐倒方向

B 退避路 (退避経路)

- それぞれの作業者の退避路を設定します - 木が倒れる方向の反対側約 45° 斜め方向にします
- 退避路を掃除し、障害物を取り除きます
- 工具や機器を安全な距離を隔てた場所に置き、退避路には置かないでください
- 伐倒時は、必ず倒れる幹の脇に立ち、横方向を退避路に沿って後退します
- 傾斜面では、斜面に対して平行に退避路を設けます
- 退避路を通して避難する際には、落下する枝と樹頭に注意してください。

根本の作業エリアの準備

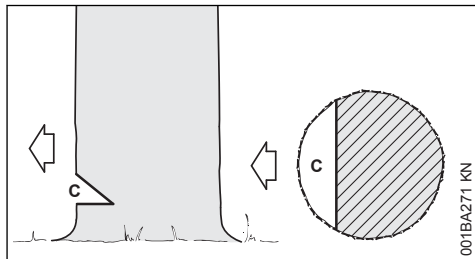
- まず、樹木の根本と作業エリアからじゃまになる枝や茂みを取り除き、安定した足場を確保します。
- 幹の下部から慎重に障害物を取り除きます (例えば斧等を使用します) - 砂、石、他の異物はソーチェーンの切れ味を低下させます



- 最大の根張りを取り除きます: 樹木が健全な状態の場合に限り、まず垂直に切断し、次に水平に切断して最大の根張りを先に取り除きます

4.3 受け口

受け口の準備

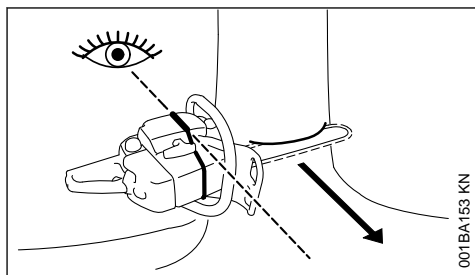


受け口 (C) によって伐倒方向が決まります。

重要:

- 伐倒方向に直角の受け口を作ります
- できるだけ地面の近くを切断します
- 幹の直径の 1/5 から 1/3 の深さまで切り込みます

カバーおよびファンハウジングの照準線を利用して伐倒方向を決定する



このチェーンソーには、カバーとファンハウジングに照準線が設けられています。その照準線を使用してください。

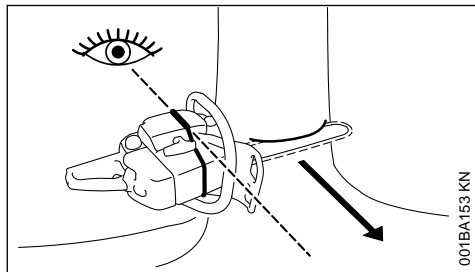
受け口を作る

受け口を作るときは、切り込みが伐倒方向と直角になるようにチェーンソーの位置を合わせます。

下部 (水平) の切断と上部 (角度付き) の切断で受け口を作成するためのさまざまな手順があります - 伐倒技術に関する国の規制を遵守してください。

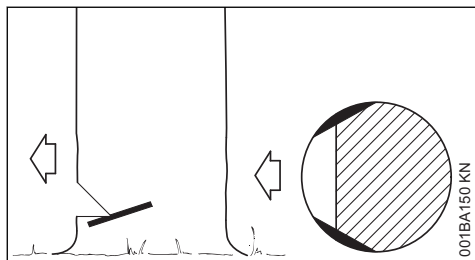
- ▶ 下部 (水平) 切断を行います
- ▶ 下部切断面まで約 45° - 60° で上部 (角度付き) 切断を行います。

伐倒方向の確認



▶ チェンソーのガイドバーを受け口の下部に差し込みます。照準線が予定した伐倒方向に向く必要があります - 必要に応じて再び受け口を切り、伐倒方向を修正します。

4.4 隅切り

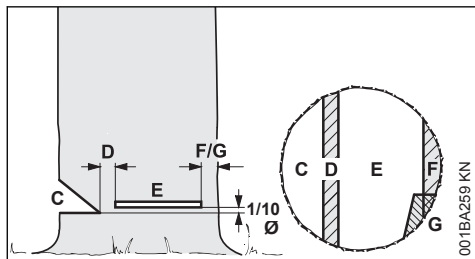


繊維が長い軟材を隅切りすると、樹木が倒れるときに辺材が裂けにくくなります。幹の両側の受け口の下部と同じ高さで、幹の直径の約 1/10 の深さの切り込みを入れます。幹が太い樹木の場合、切り込み深さはガイドバーの幅以下にします。

病気の樹木は、隅切りしないでください。

4.5 伐倒の基本情報

基本寸法



受け口 (C) によって伐倒方向が決まります。

つる (D) は伐倒の際にちょうつがいのように作用し、木が倒れるのをコントロールする助けとなります。

- つるの幅：幹の直径の約 1/10
- 伐倒中は絶対につるを切断しないでください - 切断すると、計画しなかった方向に木が倒れます - **事故が起きる危険があります！**
- 腐っている樹木の場合は、つるを広く残します

樹木は追い口 (E) によって伐倒されます。

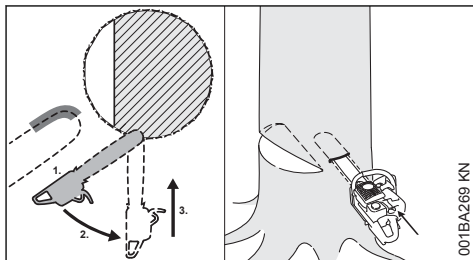
- 水平に切り込みます。
- 受け口 (C) 下部から幹の直径の 1/10 (少なくとも 3 cm) だけ高い位置に追い口を作ります。

追いつる (F) または追いつる (安定化) (G) は、樹木を保持し、木が想定よりも早く倒れるのを防ぐのに役立ちます。

- 追いつるの幅：幹の直径の約 1/10 - 1/5
- 追い口切りの際には、追いつるに切り込まないでください
- 腐っている樹木の場合は、追いつるを広く残します

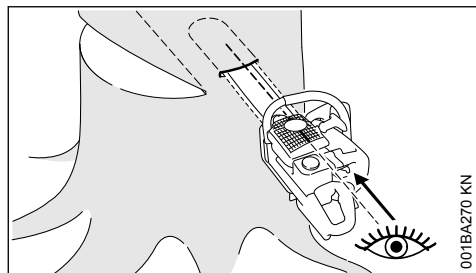
突っ込み切り

- 玉切り時の負荷軽減カット
- 彫刻



▶ 低キックバックソーチェーンを使用し、慎重に作業を行います

1. **キックバックが生じる危険があるため、ガイドバーノーズの下部を当てて切断を開始します** - 上部は使用しないでください。切り目の深さがガイドバーの幅の 2 倍になるまで全速で切断します。
2. 突っ込み切り位置に機械を慎重に差し込みます。**キックバックやプッシュバックが生じる危険があります！**
3. 慎重に突っ込み切りを行います。**プッシュバックが起きる危険があります。**



可能ならば突っ込み切り照準線を使用してください。突っ込み切り照準線とガイドバーの上部/下部を平行にします。

突っ込み切り中、突っ込み切り照準線はつるを平行にする（あらゆる箇所で同じ厚さを保つ）のに役立ちます。そのためには、突っ込み切り照準線を受け口の会合線に平行になるよう導きます。

伐倒用クサビ

伐倒用クサビはできるだけ早く（チェーンソーを制御するのに邪魔にならなくなった時点ですぐに）挿入します。伐倒用クサビを追いつ口に入れ、適切な工具で押し込みます。

アルミニウム製またはプラスチック製の伐倒用クサビのみを使用してください - 鉄製クサビは使用しないでください。鉄製クサビはソーチェンに重大な損傷を与え、危険なキックバックを発生させるおそれがあります。

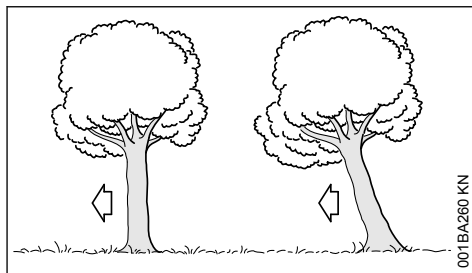
幹の直径と切り口の幅（追いつ口（E）の幅に近い）に応じて適切な伐倒用クサビを選択します。

伐倒用クサビの選択（適切な長さ、幅および高さ）については、STIHL サービス店にご相談ください。

4.6 適切な伐倒方法の選択

適切な伐倒方法の選定も、伐倒方向と退避路を決定するときに考慮すべき樹木の特性に依存します。

そうした特性にはさまざまな要素があります。本書では、最も一般的な二種類の特性だけを取り上げます：

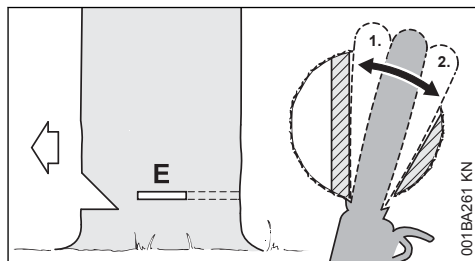


左側：	通常の樹木 - 均一な頭頂部を持つ、垂直にまっすぐな樹木
右側：	傾いた樹木 - 頭頂が伐倒方向に向いている樹木

4.7 追いつるを使用した伐倒（標準的な樹木）

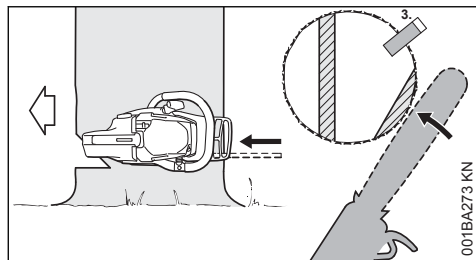
A) 細い幹

幹の直径がチェーンソーの切断長より短いときは、以下の方法で伐倒します。



周囲に大声で警告してから伐倒を開始してください。

- ▶ 追いつ口（E）を突っ込み切りします - ガイドバーを完全に突っ込みます。
- ▶ つるの後にバンパースパイクをかみ合わせ、旋回軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- ▶ つるまで追いつ口を作ります (1)。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いつるまで追いつ口を作ります (2)。
 - 追いつるには切り込まないでください。



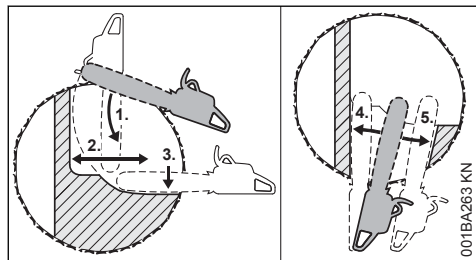
- ▶ 伐倒用クサビを差し込みます (3)。

樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- ▶ 追い口と平行に追いづるを切り込みます。両腕を完全に伸ばしてください。

B) 太い幹

幹の直径が機械の切断長よりも長いときは、以下の方法で伐倒します。



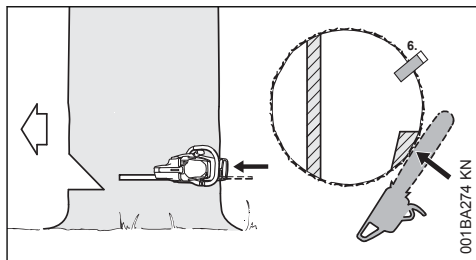
周囲に大声で警告してから伐倒を開始してください。

- ▶ バンパースバイクを追いつ口と同じ高さでかみ合わせ、旋回軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- ▶ ガイドバーの先端をつるの手前で木材に食い込ませます (1) - チェンソーを完全に水平に導き、できるだけ広く回転させます。
- ▶ つるまで追いつ口を作ります (2)。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いづるまで追いつ口を作ります (3)。
 - 追いづるには切り込まないでください。

幹の反対側でも追いつ口を作る必要があります。

必ず最初の追いつ口と同じ高さで反対側の追いつ口を作ります。

- ▶ 突っ込み切りで追いつ口を作ります。
- ▶ つるまで追いつ口を作ります (4)。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いづるまで追いつ口を作ります (5)。
 - 追いづるには切り込まないでください。



- ▶ 伐倒用クサビを差し込みます (6)。

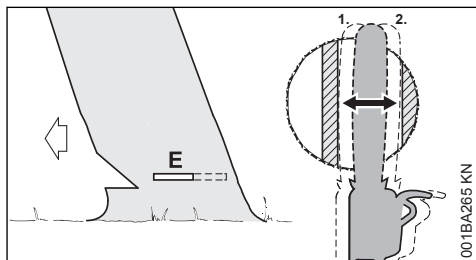
樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- ▶ 追い口と平行に追いづるを切り込みます。両腕を完全に伸ばしてください。

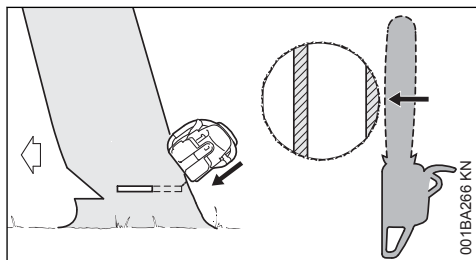
4.8 追いづるを使用した伐倒 (傾いた樹木)

A) 細い幹

幹の直径がチェンソーの切断長よりも短いときは、以下の方法で伐倒します。



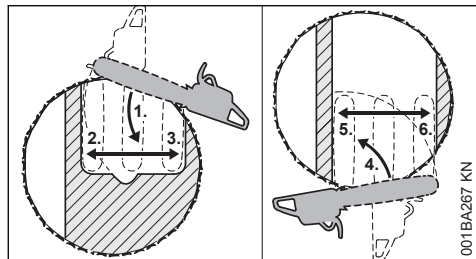
- ▶ 反対側に抜けるまで幹を突っ込み切りします。
- ▶ つるに向かって追いつ口 (E) を作ります (1)。
 - 水平に切り込みます。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いづるに向かって追いつ口を作ります (2)。
 - 水平に切り込みます。
 - 追いづるには切り込まないでください。



樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- ▶ 腕を完全に伸ばした状態で、外側から下向きに追いつるを切断します。

B) 太い幹



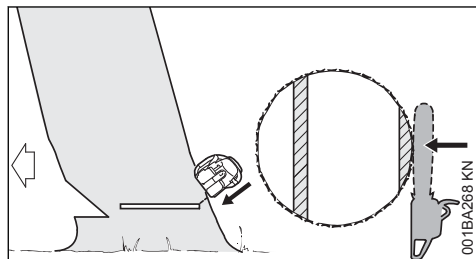
樹木の直径がガイドバーの長さを上回っているときは、以下の方法で伐倒します。

- ▶ 追いつるの後ろ側にバンパースパイクを当て、旋回軸として使用します - 不必要にチェンソーの位置を変えないでください。
- ▶ ガイドバーノーズをつるの手前の切り口に入れます - チェンソーを水平に保持し、できるだけ遠くへ旋回させます (1)。
 - 追いつるやつるには切り込まないでください。
- ▶ つるまで追いつ口を作ります (2)。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いつるまで追いつ口を作ります (3)。
 - 追いつるには切り込まないでください。

幹の反対側でも追いつ口を作る必要があります。

必ず最初の追いつ口と同じ高さで反対側の追いつ口を作ります。

- ▶ つるの後にバンパースパイクをかみ合わせ、旋回軸として使用します - チェンソーの移動を最小限に抑えます。
- ▶ ガイドバーの先端を追いつるの手前で木材に食い込ませます (4) - チェンソーを完全に水平に導き、できるだけ広く回転させます。
- ▶ つるまで追いつ口を作ります (5)。
 - つるには切り込まないでください
- ▶ 追いつるまで追いつ口を作ります (6)。
 - 追いつるには切り込まないでください。



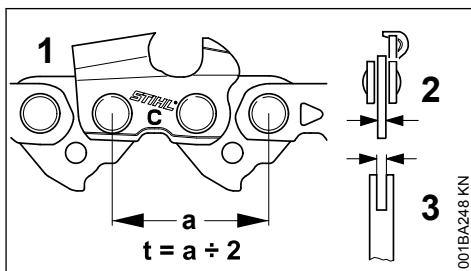
樹木が倒れる直前にもう一度、周囲に大声で警告してください。

- ▶ 腕を完全に伸ばした状態で、外側から下向きに追いつるを切断します。

5 カutting アタッチメント

カutting アタッチメントは、ソーチェン、ガイドバー、チェンスプロケットで構成されています。

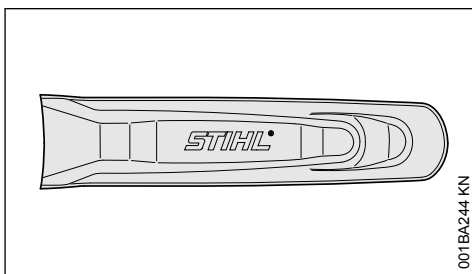
標準仕様のカutting アタッチメントはチェンソーに合致するように設計されています。



- ソーチェン (1) のピッチ (t) を、チェンスプロケットやローコマチックガイドバーのノーズスプロケットのピッチと適合させてください。
- ソーチェン (1) のドライブリンクゲージ (2) はガイドバー (3) の溝幅と一致させてください。

適合しないコンポーネントを使用すると、カutting アタッチメントは短時間使用ただけで修理不可能なほどに破損してしまうことがあります。

5.1 チェンガード



チェンソーはカutting アタッチメントに適合するチェンガードが標準装備で同梱されます。

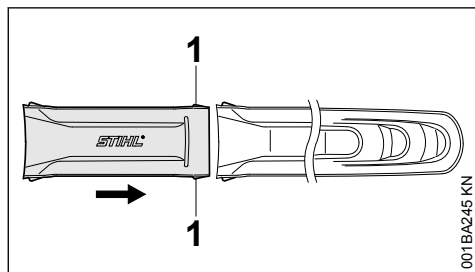
異なる長さのガイドバーがチェンソーに取り付けられている場合、常に正しい長さのチェンガードを使用してガイドバーを完全に覆うようにする必要があります。

適合するガイドバーの長さは、チェンガードの側面にマークされています。

90 cm 以上のガイド バーには、延長用チェーン ガードを 1 つ使用する必要があります。120 cm 以上のガイド バーには、延長用チェーン ガードを 2 つ使用する必要があります。

機種により、延長用ガードは、ソーの標準装備で同梱されるか、特殊アクセサリとして供給されます。

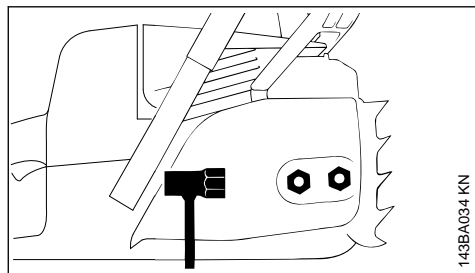
5.2 延長用チェーン ガードの取り付け



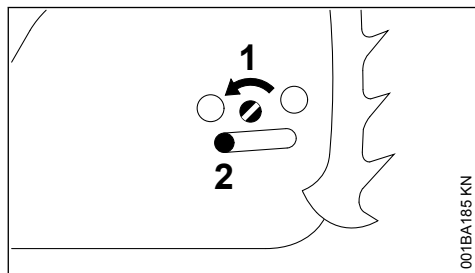
- ▶ 延長用チェーン ガードとチェーン ガードと一緒に押し込みます - 突起部 (1) がチェーン ガードにかみ合う必要があります。

6 バーとチェーンの取り付け

6.1 チェンスプロケット カバーの取り外し

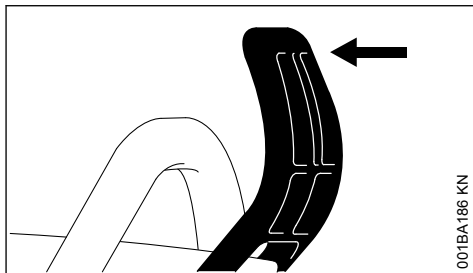


- ▶ ナットを緩めて、チェンスプロケット カバーを取り外します。



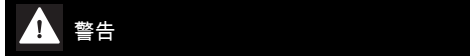
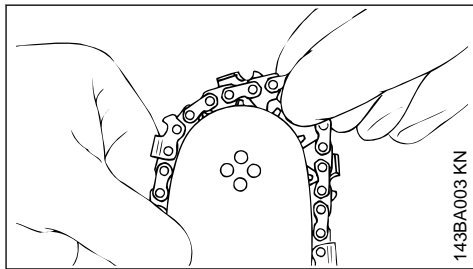
- ▶ テンショナー スライド (2) がハウジングの溝の左端に当たるまで、スクリュー (1) を反時計回りに回します。

6.2 チェン ブレーキの解除。



- ▶ カチッと音がするまで前ハンドル方向にハンドガードを引きます。チェンブレーキのロックが外れます。

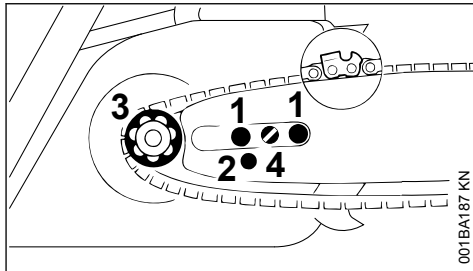
6.3 チェンの取り付け



警告

作業用手袋を着用してください。鋭利なカッターでケガをする危険があります。

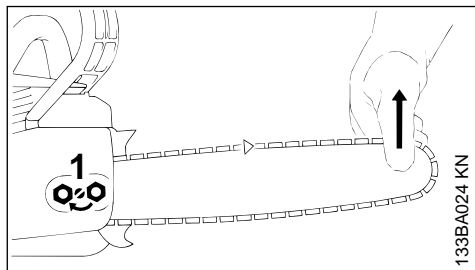
- ▶ チェンを取り付けます。バーの先端から開始します。



- ▶ ガイドバーをスタッド (1) に固定します - バー上部のカッティング エッジを右に向けます。
- ▶ テンショナー スライドのペグを位置決め穴 (2) にはめ込み、同時にチェーンをスプロケット (3) にセットします。

- ▶ テンショニング スクリュー (4) を時計回りに回して、チェーン下側のたるみがわずかになるまでチェーンを張ります。ドライブ リングがガイドバーの溝にきちんと入っていることを確認します。
- ▶ スプロケット カバーを再び取り付け、ナットを指で締めます。
- ▶ 「ソーチェーンの張り方」の項を参照してください。

7 チェンの張り



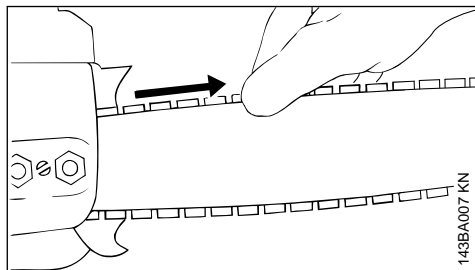
切断作業の合間に再調整する場合：

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ ナットを緩めます。
- ▶ バーの先端を上に向けて保持します。
- ▶ スクリュー ドライバーでテンショニング スクリュー (1) を時計回りに回し、チェーンがバーの下側に軽く触れるまでチェーンを張ります。
- ▶ バーの先端を持ち上げたまま、ナットをしっかりと締めます。
- ▶ 「チェーンの張り具合の点検」に進みます。

新品のチェーンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェンの張り具合は頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

8 チェンの張り具合の点検



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ 作業用手袋を着用して手を保護してください。
- ▶ チェンは、バーの下側に軽く触れ、手でバーに沿って引くことができるくらいに、張ります。
- ▶ 必要ならば、チェーンを張り直してください。

新品のチェーンは、しばらく使用したものよりも頻繁に張りを調整する必要があります。

- ▶ チェンの張り具合は頻繁に点検してください - 「作業中の注意事項」の章を参照してください。

9 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

9.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

9.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

9.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

9.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

9.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

9.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

9.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短時間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

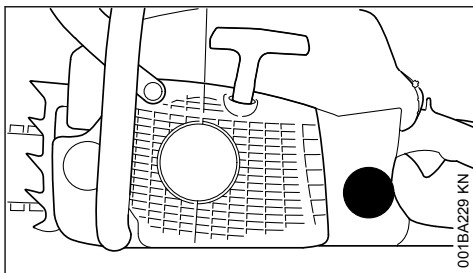
▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

10 給油

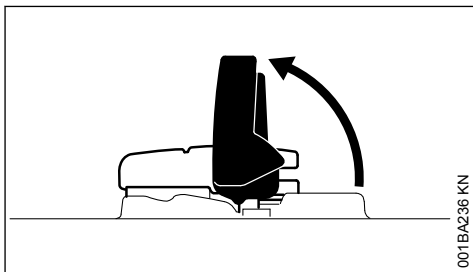


10.1 機械の準備

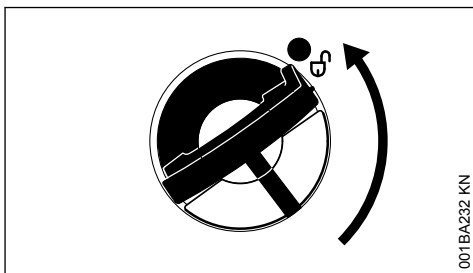


- ▶ 給油する前に、ダストが燃料タンクの中に入るのを防ぐため、キャップとその周りをきれいにします
- ▶ 必ずキャップが上を向くように機械を置きます

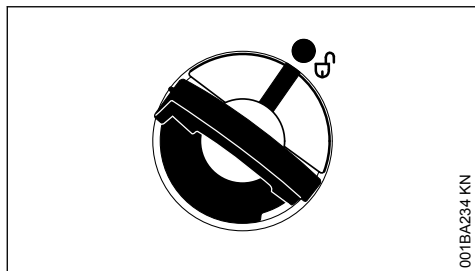
10.2 キャップの開け方



- ▶ グリップを垂直位置まで起こします。

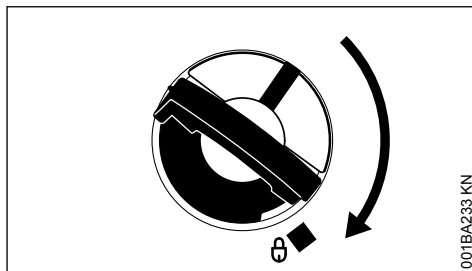


- ▶ キャップを反時計回りに回します(約 1/4 回転)。



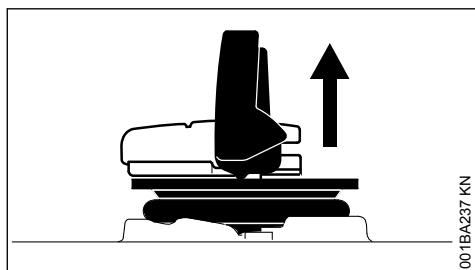
001BA234 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA233 KN

▶ キャップを押し下げたまま時計回りに回し、所定の位置にはめ込みます。



001BA237 KN

▶ タンクキャップを取り外します。

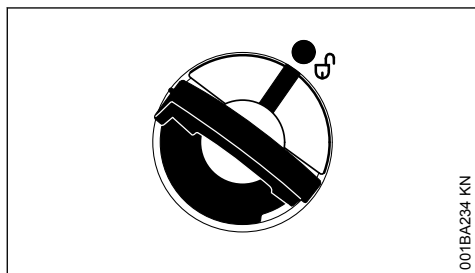
10.3 燃料の給油

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

▶ 燃料タンクに給油します。

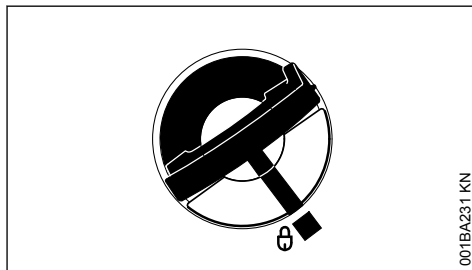
10.4 キャップの閉め方



001BA234 KN

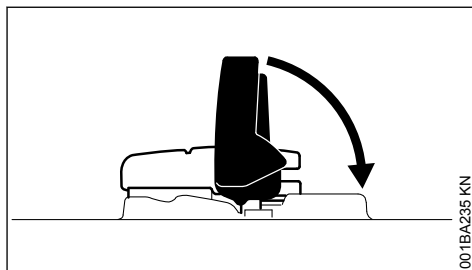
グリップを垂直位置に合わせます：

- ▶ キャップを取り付けます - タンクキャップと燃料タンクのマークを合わせてください。
- ▶ キャップを止まるまで押し下げます。



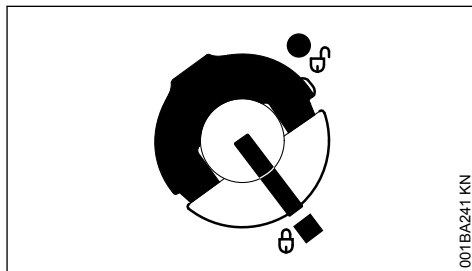
001BA231 KN

タンクキャップと燃料タンクのマークが合います。



001BA235 KN

▶ グリップを倒します。

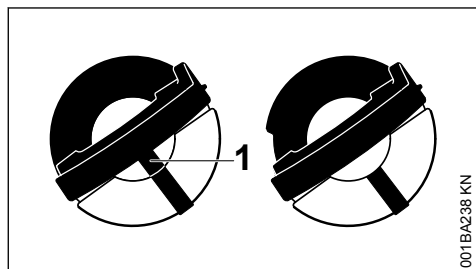


001BA241 KN

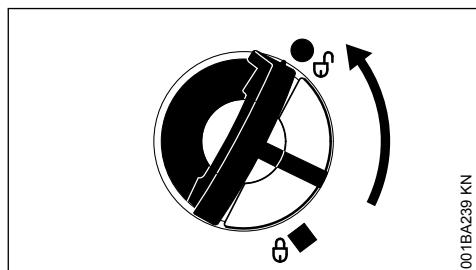
タンクキャップがロックされます。

10.5 タンクキャップを燃料タンク開口部にロックできない場合

- キャップ下部が上部に対してねじれています。
- ▶ 燃料タンクからキャップを外し、上から見て点検します。



- 左側： キャップ下部がねじれています - 内側マーク (1) が外側マークに合っています。
- 右側： 適切な位置のキャップ下部 - 内側マークがグリップの下にあります。外側マークとは合っていません。



- ▶ キャップを開口部に取り付け、フィルターネックにかみ合うまでキャップを反時計回りに回します。
- ▶ キャップをさらに反時計回りに回します (約 1/4 回転) - キャップ下部が正しい位置に合います。
- ▶ キャップを時計回りに回し、所定位置にロックします - 「キャップの閉め方」の項を参照。

11 チェン オイル

チェンとガイドバーの自動的で信頼性のある潤滑のため、環境に優しい高品質チェンオイルだけを使用してください。生分解が速いスチールバイオプラスをお勧めします。

注記

生分解性チェンオイルには、十分な耐劣化性が必要です (スチールバイオプラス等)。耐劣化性に乏しいオイルは、樹脂化が速い傾向にあります。その結果、特にチェン駆動部やチェンに蓄積物が固着し、除去しにくくなります。オイルポンプが故障する原因ともなります。

使用するオイルの品質は、ソーチェンとガイドバーの寿命に大きく影響します。従って、必ず専用のチェンオイルだけを使用してください。



警告

廃油を使用しないでください! 廃油は、長期間繰り返し肌に触れると、皮膚ガンを引き起こすことがあります! さらに、環境に害を与えることがあります!

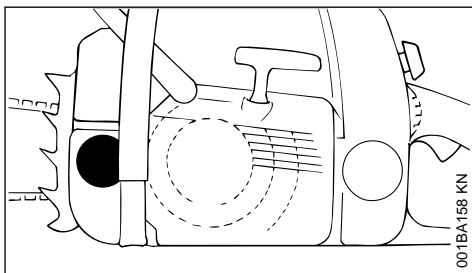
注記

廃油には必要な潤滑特性がなく、チェンの潤滑には適していません。

12 チェン オイルの給油



12.1 準備



- ▶ ゴミがタンクの中に落ちないように、フィルターキャップとその周辺の汚れをきれいに拭き取ります。
- ▶ フィラーキャップが上を向くように機械を置いてください。
- ▶ フィラーキャップを開きます。

12.2 チェン オイルを給油します。

- ▶ 燃料を補給する度に、チェン オイルを給油します。

給油の際にはチェン オイルをこぼさないようにし、またチェンオイルをタンクいっぱいに入れないでください。

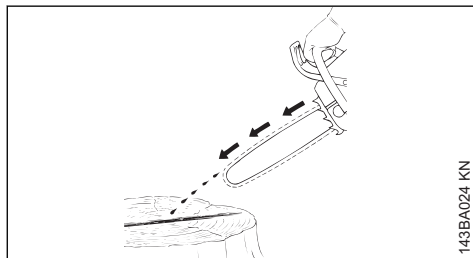
当社ではチェン オイル用スチール フィラー ノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めします。

▶ フィラー キャップを閉じます。

燃料タンクが空になっても、オイルタンクにはオイルが少量だけ残ります。

もし、タンク内のオイル量が減らない場合は、オイル供給システムが故障している可能性があります。チェンの潤滑状態を点検し、オイルの通路をきれいにしてください。必要場合はスチール サービス店にお問い合わせください。当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

13 チェン オイルの吐出点検



ソーチェンは、常に少量のオイルを飛散させる状態に潤滑されている必要があります。

注記

本機は、必ずチェンを潤滑して使用してください。ソーチェンを乾いたまま回転させると、カッティングアタッチメントがすぐに損傷し、修理が不能になります。作業開始前に、常にチェンの潤滑状態とタンク内のオイル量を点検してください。

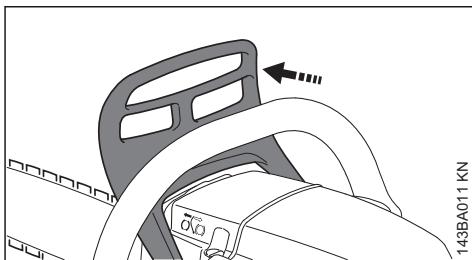
新品のソーチェンには 2~3 分間の慣らし運転が必要です。

ソーチェンの慣らし運転後、ソーチェンの張り具合を点検し、必要に応じて再調整してください。「ソーチェンの張り具合の点検」の項を参照してください。

14 チェンブレーキ



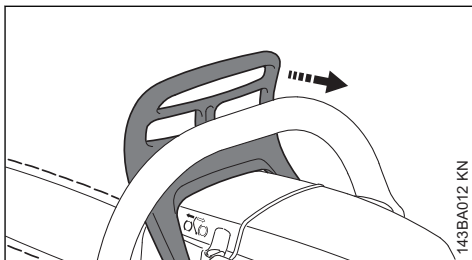
14.1 ソーチェンのロック



- 緊急時
- 始動時
- アイドリング時

左手でハンドガードをガイドバーの先端に向かって押します。または、キックバックによって自動的に作動します。ソーチェンがロックされ、停止します。

14.2 チェンブレーキの解除



- ▶ ハンドガードを前ハンドルの方向に引き戻します。

注記

スロットルを開く前 (機能点検時を除く) や切断前には、必ずチェンブレーキを解除してください。

チェンブレーキが掛かった (チェンがロックした) 状態でエンジン回転数を上げると、エンジンとチェン駆動部 (クラッチ、チェンブレーキ) が短時間で損傷します。

チェンソーのキックバック力が大きい場合も、前ハンドガードの慣性力によってチェンブレーキが掛かります。例えば伐倒作業中に作業者の左手がハンドガードの後側になくても、ハンドガードはバーの先端方向に動きます。

ハンドガードに何らかの改造を行うと、チェンブレーキは作動しなくなります。

14.3 チェンブレイキの作動点検

作業開始前：エンジンをアイドル回転させ、チェンブレイキを掛け（ハンドガードをバー先端方向に押します）、短時間（最長 3 秒間）スロットルを全開にします。チェンが回転しないことを確認してください。ハンドガードは汚れが付着していない、自由に動く状態になっている必要があります。

14.4 チェンブレイキの整備

チェンブレイキは標準的な使用によっても徐々に摩耗します。熟練整備担当者による定期整備を受けることをお勧めします。STIHL 社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めしています。次の整備期間を遵守してください。

頻繁に使用する場合：	3 カ月毎
時折使用する場合：	6 カ月毎
たまに使用する場合：	毎年

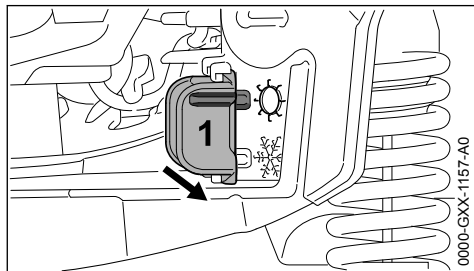
15 冬季作業



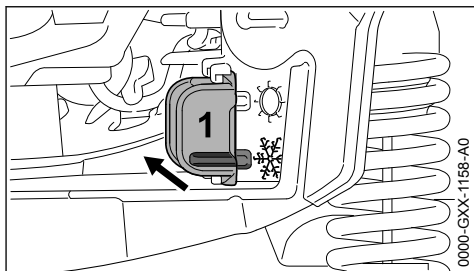
15.1 キャブレターの予熱（冬季作業）

- ▶ シュラウドを取り外します - 「シュラウド」を参照してください。

15.1.1 気温が +10°C 以下の場合



- ▶ シャッター (1) を夏の位置 (☀) から引き出します。



- ▶ シャッターを冬の位置 (❄) に取り付けます。
- ▶ シュラウドを取り付けます - 「シュラウド」を参照してください。

シリンダー付近で温まった空気が入って、キャブレターを温め、キャブレターの凍結を防ぎます。

15.1.2 気温が +20°C 以上の場合

- ▶ シャッターを必ず夏の位置 (☀) に戻して、エンジン運転時の故障やオーバーヒートが発生しないようにします。

15.2 気温が -10°C 以下の場合

特に低温の状況下（外気温が -10°C 以下で、粉雪や吹雪の時）でチェーンソーを使用する場合は、「カバープレート」キット（特殊アクセサリ）を取り付けることをお勧めします。

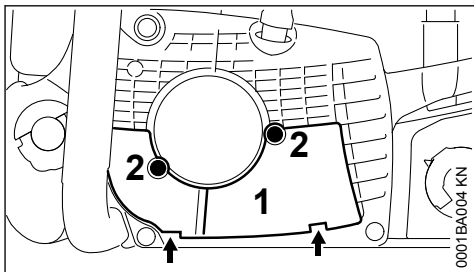
15.3 カバープレート

カバープレート（特殊アクセサリ）により、雪が機械内部に入るのを防止できます。

カバープレートを取り付ける時は、シャッターが冬の位置になっている必要があります。

エンジンが不調な場合、まずカバープレートの使用に適した状況であるかを確認してください。

15.3.1 カバープレートの取付け

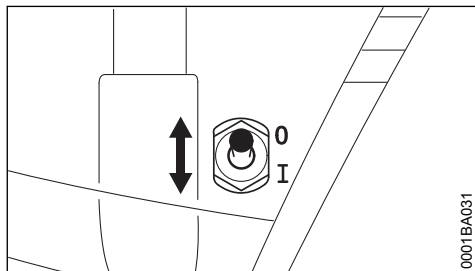


- ▶ カバープレート (1) を所定の位置に取り付け、2 個のタブ (矢印) をかみ合わせ、スクリー (2) で固定します。

16 電気ハンドル ヒーター



16.1 ハンドル ヒーターのスイッチをオンにする (装着機種)

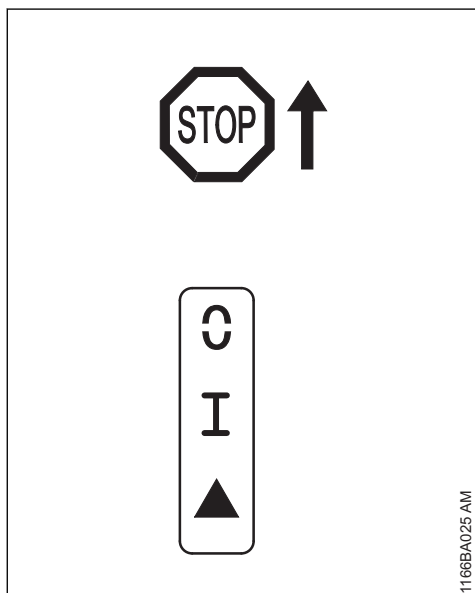


- ▶ スイッチを **I** に移動します - スイッチをオフにするには、スイッチを **0** に戻します。

長時間の作業でも過熱する危険はありません。
ヒータリング システム全体がメンテナンスフリーになっています。

17 エンジンの始動と停止

17.1 マスターコントロールレバーの位置



STOP または **0** - マスターコントロールレバーを **STOP** または **0** の方向に押し、イグニッションを

オフにします。マスターコントロールレバーは放すと運転位置 **I** に戻ります。



警告

エンジンが停止した後、イグニッションは自動的に再びオンになります。エンジンはリワインドスターターを操作して始動することができます。

運転位置 I - 暖まっているエンジンはこの位置で始動します。エンジン運転中はこの位置です。

スタート位置 ▲ - 冷えているエンジンはこの位置で始動します。

17.2 マスターコントロールレバーの設定

マスターコントロールレバーを運転位置 **I** からスタート **▲** に移動するには、トリガーロックアウトおよびスロットルトリガーを握り、その状態で保持します - マスターコントロールレバーをスタート **▲** に設定し、スロットルトリガーおよびトリガーロックアウトを放します。

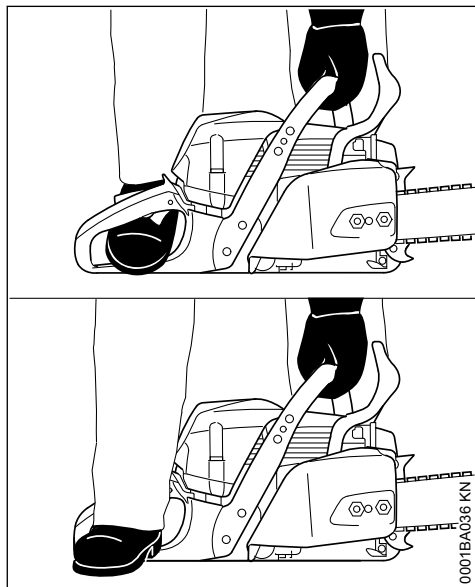
スロットルトリガーロックアウトを押し、同時にスロットルトリガーを握ると、マスターコントロールレバーがスタート位置 (**▲**) から運転位置 (**I**) に移動します。

エンジンをオフにするには、マスターコントロールレバーを **STOP** または **0** の方向に移動します - マスターコントロールレバーは放すと、運転位置 **I** に戻ります。

17.3 チェンソーの保持

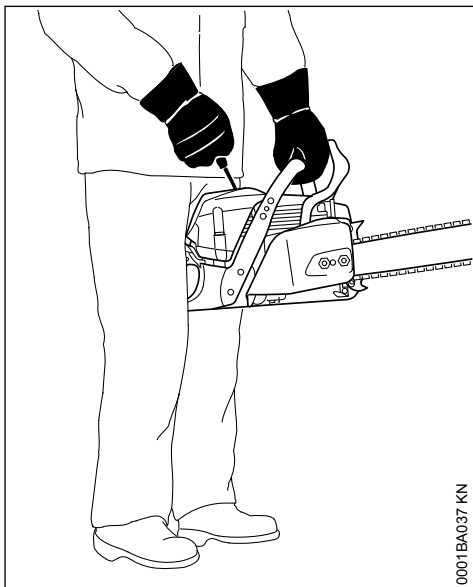
始動時にチェンソーを保持する方法は 2 つあります。

17.3.1 地面に置く方法



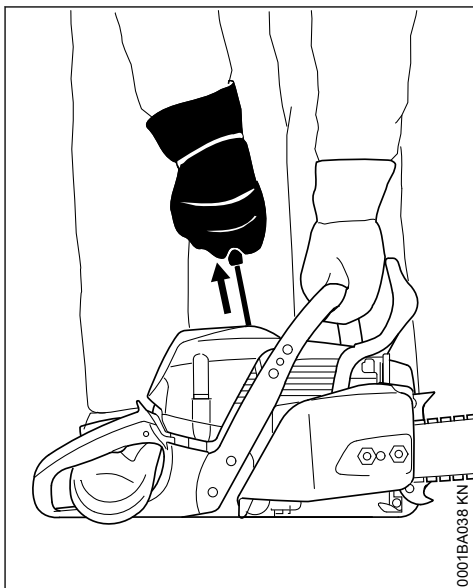
- ▶ チェンソーを地面に置きます。安定した足場を保ちます - チェンソーが他の物体や地面に接触しないことを確認します。
- ▶ 左手で前ハンドルを握ってチェンソーをしっかりと地面に押さえます - 親指がハンドルの下側に来るようにします。
- ▶ 後ハンドルを右足で踏むか、または後ハンドガードを右の踵で踏んで、しっかり押さえます。

17.3.2 膝またはもの間に挟む方法



- ▶ チェンソーの後ハンドルを、両足の膝上部でしっかり挟みます。
- ▶ 前ハンドルを左手でしっかり握ります - 親指がハンドルの下側に来るようにします。

17.4 始動操作

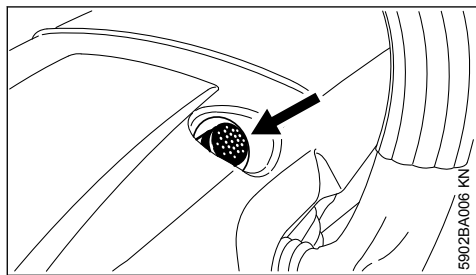


- ▶ スターターグリップを右手でゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、勢いよく引っ張ります。同時に前ハンドルを下に押し付けます。スターターロープは最後まで引っ張らないでください - **切れることがあります**。スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターターロープは正しく巻き込まれます。

手動燃料ポンプを装備していない機械：新品または長期間使用されていないエンジンの場合、またはタンクが空になるまで運転（エンジン停止）した場合、燃料システムに燃料を送るために、スターターロープを数回引く必要があります。

17.5 チェンソーの始動

17.5.1 デコンプバルブ

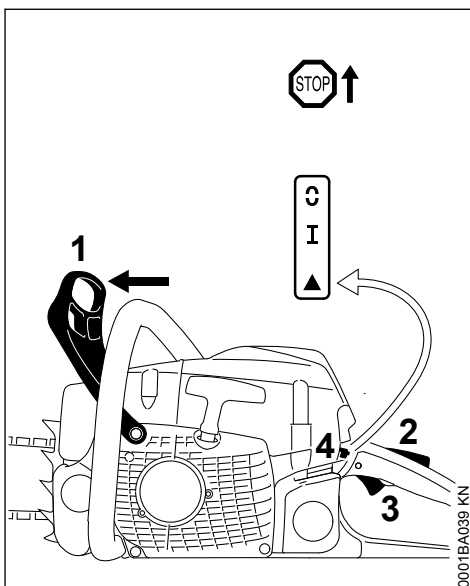


- ▶ ボタンを押すと、デコンプバルブが開きます。デコンプバルブは、エンジンが点火されると直ちに自動的に閉じます。このため、始動する前には、デコンプバルブのボタンを必ず押してください。

!

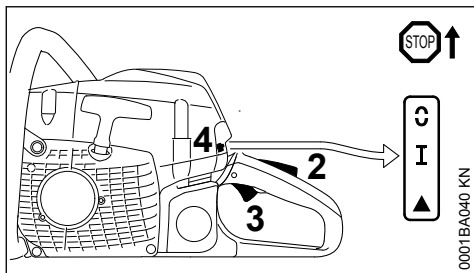
警告

チェンソーの作業者以外は作業場所から十分離れてください。

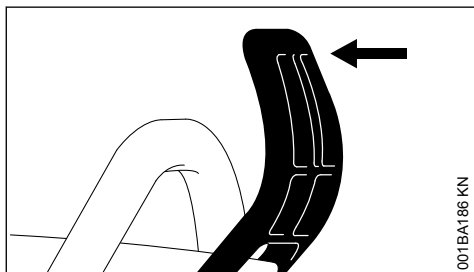


- ▶ ハンドガード (1) を前方に押します - チェンがロックします。
- マスターコントロールレバーは、通常運転の位置 I にあります。
- ▶ エンジンが冷えている場合：トリガーロックアウト (2) を押しながら、スロットルトリガー (3) を引きます。両方のレバーをそのまま保持して、マスターコントロールレバーをスタート記号 ▲ にセットします。
 - ▶ チェンソーをしっかりと保持します。
 - ▶ エンジンが始動するまでスターターグリップを素早く強く引きます。
 - ▶ エンジンがかからない場合：マスターコントロールレバーをスタート位置 ▲ に移動して、始動手順を繰り返します。

17.6 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スタート位置▲でエンジンを始動した場合、トリガーロックアウト(2)を押し込み、スロットルトリガー(4)を同時に引きます - マスターコントロールレバー(4)が運転位置Iに移動し、エンジンはアイドリング回転になります。



- ▶ ハンドガードを前ハンドルの方に引き戻してください。

チェンブレイキのロックが解除されます - チェンソーの使用準備が完了しました。

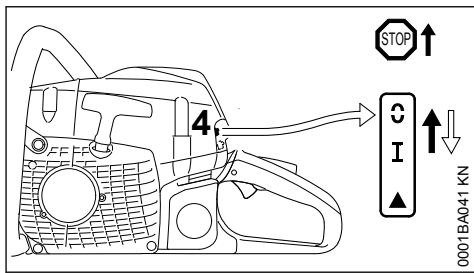
注記

必ずチェンブレイキを解除してから、エンジンを加速させます。チェンブレイキがロックしている状態(ソーチェンは静止した状態)でエンジン回転数を高くすると、短時間でクラッチやチェンブレイキが損傷します。

17.7 外気温度が極めて低いとき

- ▶ 必要に応じて冬季作業の位置にします - 「冬季作業」を参照してください。

17.8 エンジン停止



- ▶ マスターコントロールレバーを STOP または ◯ の方向に移動します - マスターコントロールレバーは放すと、通常の運転位置 I に戻ります。

17.9 エンジンがかからない場合

- ▶ すべてが正しくセットされていることを確認します。
- ▶ 燃料タンク内を確認して、必要な場合給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

または：

燃焼室の混合気が濃すぎて、エンジンが燃料を吸い込みすぎている場合があります。

- ▶ スパークプラグを取り外します - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スパークプラグを乾かします。
- ▶ チェンソーを地面に置きます。
- ▶ マスターコントロールレバーが止まるまで STOP または ◯ の方向に押し、そこで保持します。



警告

マスターコントロールレバーが STOP または ◯ に当たっていない場合、イグニッションスパークが生じることがあります。

- ▶ リワインドスターターを数回引きます。
- ▶ マスターコントロールレバーは放すと運転位置 I に戻ります。
- ▶ スパークプラグを取り付けます - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ 説明のとおりチェンソーを保持して、始動します。

18 作業中の注意事項

18.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないで

ください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5～15 回分の使用後となります。

18.2 作業中

注記

チェンブレイキが解除されたときのみスロットルを握ります。チェンブレイキがロックしている状態(チェンはロックした状態)でエンジン回転数を高くすると、短時間でエンジンやチェン駆動部(クラッチ、チェンブレイキ)を損傷します。

18.2.1 チェンの張りを時々点検してください!

長期間使用しているソーチェンに比べて、新しいソーチェンは頻繁に張り直してください。

18.2.2 チェンが冷えている場合

チェンがバーの下部に軽く触れるが、手で回せるくらいが正しい張り方です。必要に応じて、チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

18.2.3 作業温度のチェン

チェンが伸びてきます。ドライブリンクがバーの下側のバーの溝から出てはいけません - そうしないと、チェンがバーから飛び出すことがあります。チェンの張りを再調整します - 「ソーチェンの張り方」の項を参照してください。

注記

チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

18.2.4 長時間のフルスロットル運転後

長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

18.3 作業後

- ▶ 作業中に暖まったチェンの張りを調整した場合、作業終了後にチェンを緩めてください。

注記

作業が終了したらチェンは必ず緩めてください。チェンは冷えると縮みます。チェンを緩めないと、クランクシャフトとベアリングを損傷することがあります。

18.3.1 短期間の保管

エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを一杯にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。

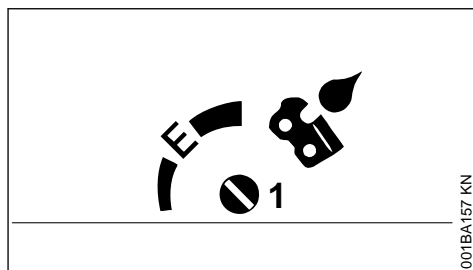
18.3.2 長期間の保管

「機械の保管」を参照

19 オイル量の調節

流量調整型オイルポンプは特殊オプションです。

バーの長さ、木の種類および切り方によって、必要なオイルの量が異なります。



マシン下部にある調整スクリュー (1) を使用して必要な量のオイルが給油されるようにします。

E マチックの位置 (E)。中程度のオイル流量 -
▶ 調整スクリューを「E」(E マチック位置)まで回します。

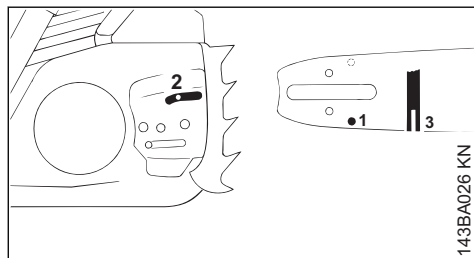
オイル流量を増加するには -
▶ 調整スクリューを時計回りに回します。

オイル流量を低減するには -
▶ 調整スクリューを反時計回りに回します。

注記

チェーンは、常に潤滑油の膜で潤滑されている必要があります。

20 ガイド バーの保守



- ▶ チェンの目立てや交換を行うたびにガイドバーを裏返しにします。それにより片側 (特にバーの先端や下側) のみの摩耗を防ぐことができます。
- ▶ オイル供給穴 (1)、オイル流路 (2)、バーの溝 (3) は定期的に清掃してください。
- ▶ 切断に最も使用するガイドバー部分の溝の深さをファイリングゲージ (特殊アクセサリ) の目盛で測定します。

チェンの種類 チェンのピッチ 溝の最低

Picco(ピコ)	1/4" P	深さ
Rapid(ラピッド)	1/4"	4.0 mm
Picco(ピコ)	3/8" P	5.0 mm
Rapid(ラピッド)	3/8", 0.325"	6.0 mm
Rapid(ラピッド)	0.404"	7.0 mm


溝の深さが規定値よりも浅い場合：

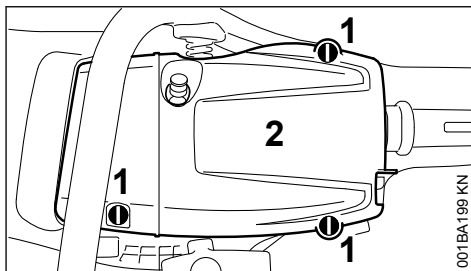
- ▶ ガイドバーを交換します。

交換しないと、ドライブリックタングが溝の底部を擦るようになり、カッターとタイストラップがバーレールに載らなくなります。

21 シュラウド

21.1 シュラウドの取り外し

- ▶ エンジンをオフにするには、マスターコントロールレバーを **STOP** または  の方向に移動します - マスターコントロールレバーは、放すと、運転位置 I に戻ります。
- ▶ ハンドガードを前方に押します - チェンがロックします。



- ▶ ツイストロック (1) を、コンビネーションレンチで反時計回りに 1/4 回転回して、開きます。
- ▶ シュラウド (2) を外します。

21.2 シュラウドの取り付け

- ▶ シュラウドを所定の位置に置きます。
- ▶ ツイストロックを、時計回りに 1/4 回転回して、閉めます。

22 エアフィルターの掃除

22.1 エンジン出力が著しく低下した場合

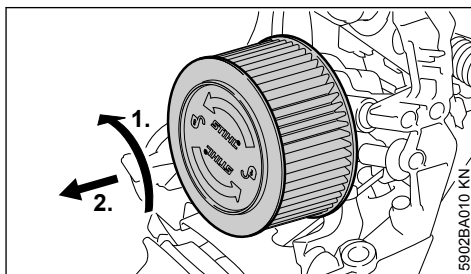
- ▶ シュラウドを取り外します - 「シュラウド」を参照してください。

22.1.1 エアフィルターの取り外し

- ▶ フィルター周囲の浮いた汚れを取り除きます。

注記

フィルターが損傷するおそれがあるため、エアフィルターの着脱には工具を使用しないでください。



- ▶ エアフィルターを反時計回りに 1/4 回転させ、後ハンドルの方向に持ち上げて取り外します。
- ▶ 損傷したフィルターは必ず交換してください。

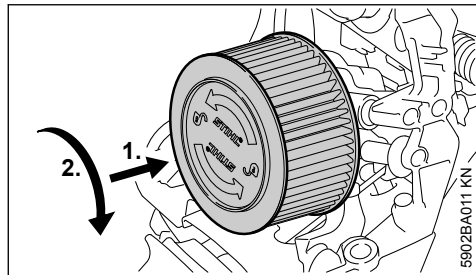
22.1.2 エアフィルターの清掃

- ▶ フィルターを手でたたいて汚れを落とします。
- ▶ フィルターの外側に STIHL 特殊洗浄剤または石鹼水を吹き付けます。
- ▶ ぬるま湯でフィルターの外側をすすぎます。

注記

- エアフィルターは外部の熱源を使用せずに自然乾燥させてください。
- フィルターにオイルをしみこませないでください。

- ▶ エアフィルターを自然乾燥させます。
- ▶ エアフィルターを取り付けます。

22.1.3 エアフィルターの取り付け

- ▶ エアフィルターを所定の位置に合わせます。
- ▶ エアフィルターをフィルターハウジングの方向に押しながら時計方向に回し、はめ込みます - 「STIHL」の文字を水平にしてください。
- ▶ シュラウドを取り付けます - 「シュラウド」を参照してください。

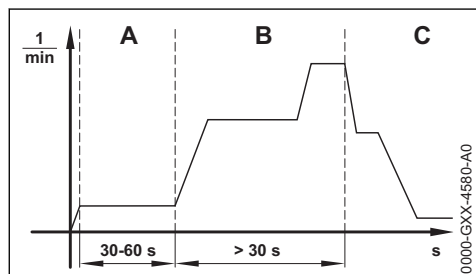
23 M-Tronic

このチェンソーは、性能が最適化されるよう作業中に自動調整されます。較正を行うと、チェンソーの性能はより短時間で最適化されます。

外気温が -10°C 以下またはエンジンが冷えている場合：

- ▶ エンジンを始動し、チェンブレーキを解除します。
- ▶ スロットルを約 1 分間開閉させ、エンジンを暖機します。
- ▶ エンジンを切ります。

チェンソーを次の手順で較正します：



- ▶ マスターコントロールレバーを ▲ の位置にセットします。

- ▶ チェンブレーキを掛けます。
- ▶ スロットルトリガーを握らずにエンジンをかけます。エンジンが始動し、マスターコントロールレバーは ▲ の位置に留まります。
- ▶ スロットルトリガーを握らずにエンジンを 30 秒以上作動させます。ただし、60 秒以上は作動させないでください。

**警告**

チェンブレーキが解除されていると、チェンが回転することがあります - **ケガをするおそれがあります。**

チェンソーを取扱説明書の説明に従って保持します。回転するソーチェーンには触れないでください。

- ▶ チェンブレーキを解除します。

注記

較正作業は、チェンソーが適切に較正される前にスロットルトリガーを放すと中止されます。その場合は、較正作業を再開させる必要があります。

- ▶ スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。

注記

較正作業中は、スロットルトリガーを完全に握っておかないと、チェンソーが適切に較正されないおそれがあります。それによりチェンソーが損傷することがあります。

- ▶ スロットルトリガーを完全に握り、そのまま保持します。
- ▶ スロットルトリガーを 30 秒以上握り、そのまま保持します。

エンジンが加速し、チェンが回転します。チェンソーの較正が行われます。較正中は、エンジン回転数が大きく変動します。

エンジンがストールした場合：

- ▶ チェンソーの再較正を試みてください。

エンジンが再びストールした場合：

- ▶ チェンブレーキを掛けます。
- ▶ チェンソーを使用しないでください。STIHL サービス店にサポートを依頼してください。チェンソーが故障しています。

エンジン回転数が大きく低下したらすぐに：

- ▶ スロットルトリガーを放します。

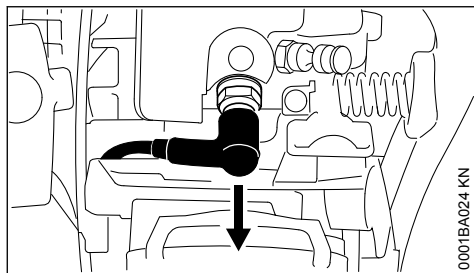
エンジンはアイドリング回転になります。以上でチェンソーの較正作業が完了し、使用準備が整います。

24 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

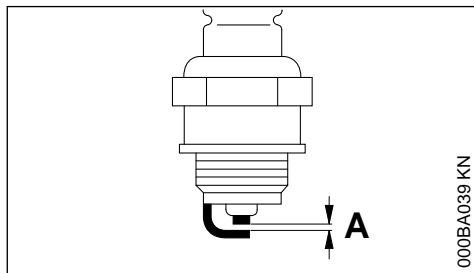
24.1 スパーク プラグの取り外し

- ▶ シュラウドを取り外します - 「シュラウド」を参照してください。



- ▶ スパークプラグ ターミナルを抜き取ります。
- ▶ スパーク プラグを緩めます。

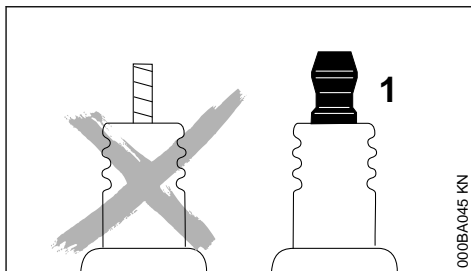
24.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルター汚れ
- 劣悪な使用環境

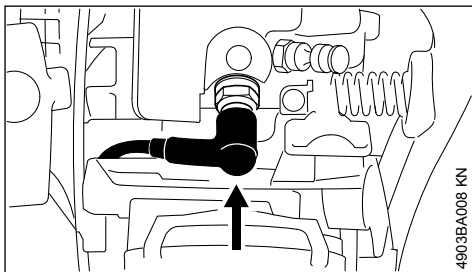


警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

24.3 スパーク プラグの取り付け



- ▶ スパーク プラグを座位にねじ込み、ターミナルをしっかりと押し込んで取り付けます。
- ▶ シュラウドを取り付けます。

25 機械の保管

30 日以上保管時

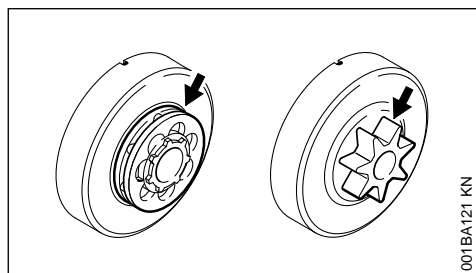
- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルリングさせます。
- ▶ ソーチェンとガイド バーを取り外します。掃除して、保護オイルを吹き付けます
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダー フィンとエア フィルターに注意します

- ▶ 生分解チェン オイル (STIHL バイオプラスなど) を使用するときときは、オイルタンクいっぱいにはオイルを入れます
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管します。子供や他の無断使用者の手の届かない場所に保管してください。

26 チェン スプロケットの点検と交換

- ▶ チェンスプロケットのカバー、ソーチェン、ガイドバーを外します。
- ▶ チェンブレイキを外します - 前ハンドルからハンドガードを引っばります

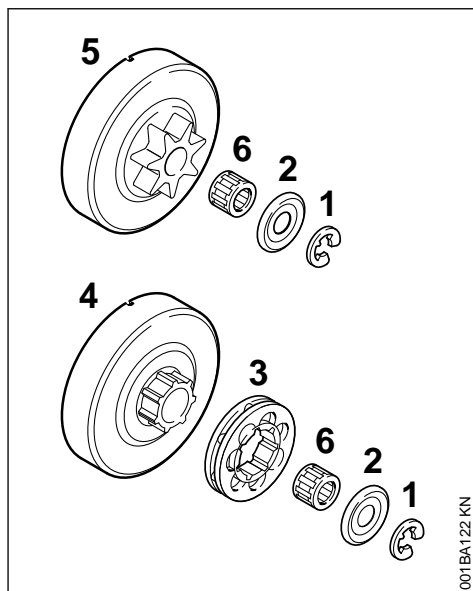
26.1 新しいチェンスプロケットを取り付けます



- 2 本のソーチェン使用後またはその前
- 磨耗マーク (矢印) が 0.5 mm を超えたら、ソーチェンの寿命が短くなるので、点検ゲージ (特殊アクセサリ) を使用して点検します

2 本のソーチェンを交互に使用すると、チェン スプロケットの寿命が延びます。

スチールでは、チェンブレイキの機能を最大限に確保するために、スチール純正チェン スプロケットの使用を推奨します。



- ▶ E-クリップ (1) をスクリュードライバーで外します
- ▶ ワッシャー (2) を外します
- ▶ リム スプロケット (3) を取り外します
- ▶ クラッチ ドラム (4) の溝を点検します - 磨耗がひどい場合は、クラッチ ドラムも交換します
- ▶ クイックストップ スーパー チェンブレイキのスロットルトリガー ロックアウトを押してから、クラッチ ドラムまたはスーパー チェン スプロケット (5) を、ニードルケージ (6) と一緒にクランクシャフトから外します

26.2 スーパー チェン スプロケット/リム スプロケットの取り付け

- ▶ クランクシャフトの根本とニードル ケージをきれいにし、スチール潤滑グリース (特殊アクセサリ) を塗布します
- ▶ ニードル ケージをクランクシャフトの根元に押し込みます
- ▶ 再び取り付け後に、クイックストップ スーパー チェンブレイキのスロットルトリガー ロックアウトを先に押してから、クラッチドラムおよび/またはスーパー チェン スプロケットを約 1 回転回して、オイル ポンプ ドライブのキャリアをかみ合わせます
- ▶ リム スプロケットを取り付けます - 空洞部分を外側に向けます
- ▶ ワッシャーと E-クリップをクランクシャフトに取り付けます

27 ソーチェンの整備と目立て

27.1 ソーチェンを正しく目立てして 楽に切断作業を行う

正しく目立てされたチェーンを使うと、ほんの少し押すだけで楽に木材を切ることができます。

切れ味が悪いまたは損傷しているソーチェンを使用しないでください - 身体に大きな負担がかかり、振動が激しく、切断状態が悪く、摩擦が早くなります。

- ▶ ソーチェンの汚れを取り除きます
- ▶ ソーチェンの亀裂およびリベットの損傷を点検します
- ▶ 損傷または磨耗しているチェーン構成部品を交換して、形状および磨耗に関して残存部分に適合するようにします - 状態に応じて再加工します

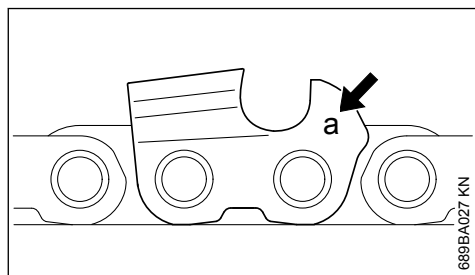
超硬チップ付き (デュロ) ソーチェンは、特に耐摩耗性が強くなっています。最適な目立てをするには、スチールではスチール サービス店をお勧めします。



警告

下記の角度と寸法に適合することが絶対に必要です。目立てが不適切なソーチェン (特にデプスゲージが低すぎる) では、チェーンソーがキックバックを起こしやすくなります - **ケガの危険!**

27.2 チェンのピッチ



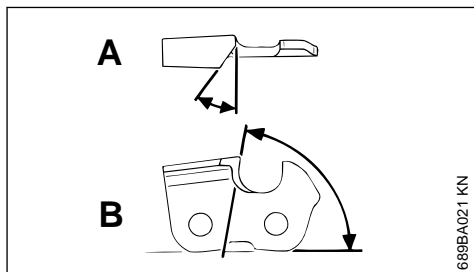
チェーンのピッチのマーキング (a) が、個々のカッターのデプスゲージの部分に刻印されています。

マーキング (a)	チェーンのピッチ	
	インチ	mm
7	1/4 P	6.35
1 または 1/4	1/4	6.35
6、P または PM	3/8 P	9.32
2 または 325	0.325	8.25
3 または 3/8	3/8	9.32
4 または 404	0.404	10.26

使用するヤスリの直径は、チェーンピッチによって異なります - 表「目立工具」を参照してください。

カッターの角度は、目立てをする間維持する必要があります。

27.3 上刃・横刃目立て角度



A 上刃目立て角度

スチール ソーチェンは、上刃目立て角度 30 度で目立てします。リッピングチェーンは例外で、上刃目立て角度が 10 度です。リッピングチェーンは名称に X が含まれます。

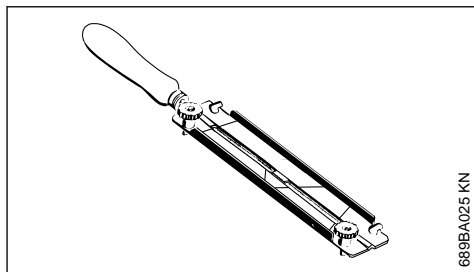
B 横刃目立て角度

指定されたファイルホルダーおよびファイル直径を使用すると、自動的に適切な横刃目立て角度になります。

刃の形状	角度(°)	
	A	B
マイクロ = セミチゼル歯、63 PM3、26 RM3、36 RM など	30	75
スーパ = フル チゼル歯、63 PS3、26 RS、36 RS3 など	30	60
リッピングチェーン、63 PMX、36 RMX など	10	75

カッターの角度は、ソーチェンのすべてで同じにする必要があります。角度が一定でない場合：ソーチェンの動作が雑で不均等で、磨耗が早く、ソーチェンが破損することさえあります。

27.4 ファイルホルダー



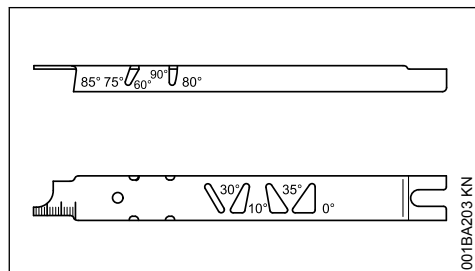
▶ ファイルホルダーの使用

手でソーチェンを目立てするときは、必ずファイルホルダー (特殊アクセサリ、表「目立工具」

を参照)を使用します。ファイルホルダーには、目立て角度のマーキングがあります。

専用のチェーンヤスリを使用してください！
他のヤスリは切断の形状とタイプに関して不適切です。

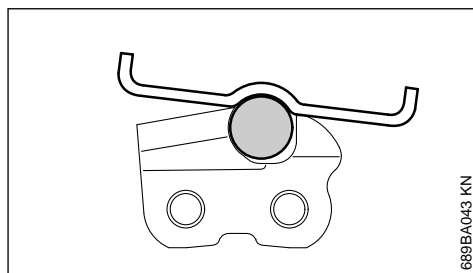
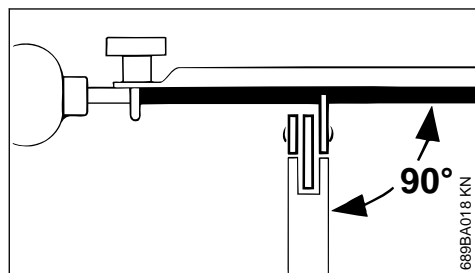
27.5 角度を確認するには



スチール ファイリング ゲージ (特殊アクセサリ、表「目立工具」を参照)を使用します - 上刃・横刃目立角、デプスゲージの設定、および刃の長さの点検、さらに溝とオイル孔の掃除に使える、便利な汎用ゲージです。

27.6 正しい目立

- ▶ チェンピッチに合った目立ツールを選びます
- ▶ 必要に応じてガイドバーを固定します
- ▶ ソーチェンをブロックします - ハンドガードを前方に押します
- ▶ ソーチェンを進めるには、ハンドガードをハンドルバーに向けて引きます：チェーンブレーキが解除されます。クイックストップスーパーチェーンブレーキシステムでは、さらにスロットトリガーロックアウトを押します
- ▶ 目立てを頻繁に行い、ほんのわずかに刃先を擦ります - 簡単な目立てには、通常、ヤスリを2、3回当てただけで十分です



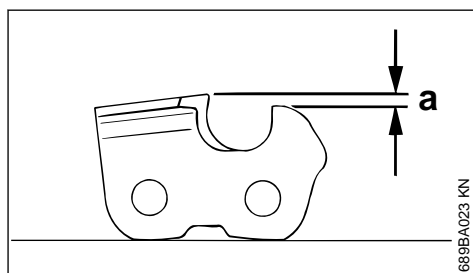
- ▶ ヤスリの位置：ファイルホルダーのマーキングで指定された角度で水平方向 (ガイドバーの側面に対して直角) に、ファイルホルダーを刃とデプスゲージの上に置きます
- ▶ 必ず内側から外側に向けてヤスリをかけます
- ▶ ヤスリは前方ストロークのみで目立てをします - 後方ストロークのときはヤスリを少し離します
- ▶ タイストラップおよびドライブリンクにヤスリをかけないでください
- ▶ 定期的にヤスリを少し回して、不均等に磨耗しないようにします
- ▶ ヤスリのバリを取り除くには、硬木の小片を使用します
- ▶ ファイリングゲージで角度を確認します

すべてのカッターの長さを同じにします。

カッターの長さが異なると、刃の高さも異なり、ソーチェンの動作が荒くなり、チェーンが破損することがあります。

- ▶ すべてのカッターを最も短いカッターと同じ長さに上げます - 理想的には電動式目立機を使用するサービス店で実施します

27.7 デプスゲージの設定



デプスゲージによって、カッターが木に食い込む深さ、つまり切りくずの厚さが決まります。

- a デプスゲージとカッター先端の間の必要な距離

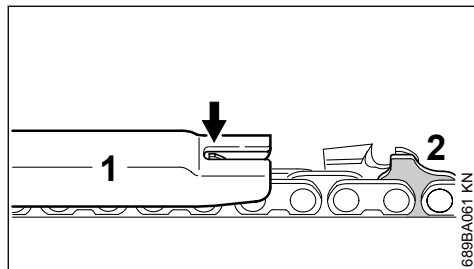
霜がないときに軟らかい木を切断する場合は、距離を最大 0.2 mm (0.008") 増やすことができます。

チェンのピッチ		デプス ゲージ 距離 (a)	
インチ	(mm)	mm	(インチ)
1/4 P	(6.35)	0.45	(0.018)
1/4	(6.35)	0.65	(0.026)
3/8 P	(9.32)	0.65	(0.026)
0.325	(8.25)	0.65	(0.026)
3/8	(9.32)	0.65	(0.026)
0.404	(10.26)	0.80	(0.031)

27.8 デプス ゲージを低くする

カッターの目立てを行うと、デプス 量が小さくなります。

- ▶ 目立てを行うたびにデプス ゲージの設定を確認します



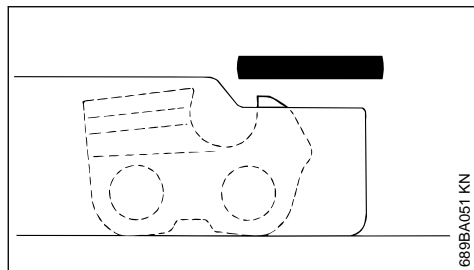
- ▶ チェン ピッチに適切なファイル ゲージ (1) をソーチェンに載せ、確認するカッターに押しつけます - デプス ゲージがファイル ゲージより突き出ている場合、デプス ゲージを再加工する必要があります

セーフティ ドライブ リングが付いたソーチェン (2) - セーフティ ドライブ リングの上部 (2) (サービスマーキング付き) はカッターのデプス ゲージと一緒に下がります。

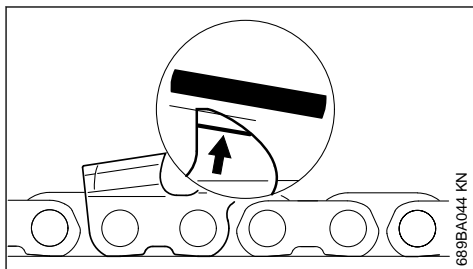


警告

セーフティ ドライブ リングの残りの部分は、目立てしてはいけません。チェンソーがキックバックを起こす危険性が高まる場合があります。



- ▶ デプス ゲージを加工し、ファイル ゲージと揃うようにします

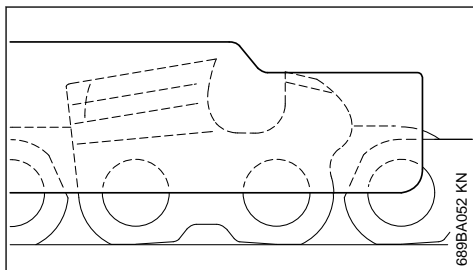


- ▶ その後、デプス ゲージの先端をサービス マーク (矢印を参照) と平行になるようにドレッシングします - その際、デプス ゲージの最も高い位置が、さらに後方にずれないように注意します



警告

デプス ゲージが低すぎると、チェンソーがキックバックを起こしやすくなります。



- ▶ ファイル ゲージをソーチェンに載せます - デプス ゲージの最も高い位置がファイル ゲージと一致しなければなりません
- ▶ 目立てが終了したら、ソーチェンをよく洗浄し、ヤスリやグラインダーの切削分を除いて、十分に潤滑油を塗布します
- ▶ 長期間使用しない場合、ソーチェンを洗浄して、潤滑油を塗布した状態で保管します

目立工具 (特殊アクセサリ)							
チェンのピッチ		丸ヤスリ	丸ヤスリ	ファイル ホルダー	ファイル ゲージ	平ヤスリ	目立セット 1)
インチ	(mm)	mm (インチ)	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号	部品番号
1/4P	(6.35)	3.2 (1/8)	5605 771 3206	5605 750 4300	0000 893 4005	0814 252 3356	5605 007 1000
1/4	(6.35)	4.0 (5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
3/8 P	(9.32)	4.0 (5/32)	5605 772 4006	5605 750 4327	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1027
0.325	(8.25)	4.8 (3/16)	5605 772 4806	5605 750 4328	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1028
3/8	(9.32)	5.2 (13/64)	5605 772 5206	5605 750 4329	1110 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1029
0.404	(10.26)	5.5 (7/32)	5605 772 5506	5605 750 4330	1106 893 4000	0814 252 3356	5605 007 1030

1) 丸ヤスリ、平ヤスリ、ファイリング ゲージ付きファイル ホルダーで構成

28 整備表

[illegible]

次の項目は、通常の使用条件の場合に適用されます。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合(非常に粉塵の多い場所、樹脂分の多い材木、熱帯樹からの材木等)は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。時々しか使用しない場合は、整備間隔を相応に長くすることが可能です。		推奨 点検 間隔	推奨 清掃 間隔	推奨 交換 間隔	推奨 点検 間隔	推奨 清掃 間隔	推奨 交換 間隔	推奨 点検 間隔	推奨 清掃 間隔
ガイドバー	点検 (摩耗、損傷)	X							
	掃除し、裏返す								X
	バリ取り			X					
	交換						X	X	
チェンスプロケット	点検			X					
エアフィルター	清掃					X		X	
	交換						X		
防振エレメント	点検	X				X			
	交換は サービス店に依頼してください ¹⁾						X		
ファンハウジングの空気吸入口	清掃		X	X					X
シリンダーフィン	清掃		X		X				X
キャブレター	アイドリング調整の確認 - ソーチェンが回らないこと	X	X						
	エンジンのアイドリング中にソーチェンが回転し続ける場合、サービス店にチェーンソーの点検と修理を依頼してください ¹⁾								X
スパークプラグ	電極ギャップの調整					X			
	100 運転時間ごとに交換								X
手が届くスクリュー、ナットやボルト	締め付ける ²⁾								X
チェンキャッチャー	点検	X							
	交換						X		
安全情報ラベル	交換						X		

¹⁾STIHL では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています

²⁾10 - 20 時間の使用後にチェーンソー (出力 3.4 kW 以上) のシリンダーベーススクリューをしっかりと締め直してください。

29 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の仕様を遵守して使用すると、本機への過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備および保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容および警告事項に従わないことに起因するすべての損傷については、使用者が責任を負います。これには、特に以下が適用されます：

- スチールが承認していない製品の改造
- 本機への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリの使用
- 使用目的に合わない方法での本機の使用
- スポーツや競技などの催し物で本機を使用
- 損傷したコンポーネントを装備したままで機械を使用したことから生じる派生的損傷

29.1 整備作業

「整備と保守」に記載されているすべての作業を、定期的に実行する必要があります。使用者がこれらの整備作業を自身で実行しない場合、それらの作業はサービス店に依頼する必要があります。

当社では、整備や修理をスチール認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。スチール販売店では定期的にトレーニングを受け、適切な技術情報の提供を受けています。

これらの作業を実行しないか、不適切に実行した場合、結果として損傷が発生することがあり、これには使用者が責任を負います。特に以下が対象になります：

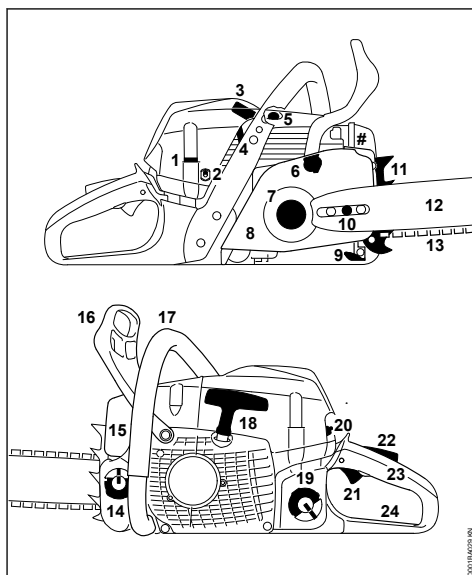
- 指定された整備周期を守らなかったか、整備が不十分であった（たとえばエア フィルター、燃料フィルター）、または冷却空気経路（エア 吸入スリット、シリンダーフィン）の掃除が不十分であったことが原因で生じたエンジンの損傷
- 不適切な保管に起因する腐食損傷およびその他の派生的損傷
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷

29.2 磨耗部品

カットオフソーの部品によっては、規定通りに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- ソーチェーン、ガイドバー
- 駆動部品（クラッチ、クラッチ ドラム、チェン スプロケット）
- フィルター（エア フィルター、オイル フィルター、燃料フィルター）
- リワインド スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのコンポーネント

30 主要構成部品



- 1 シュラウド ロック
- 2 ハンドル ヒーター スイッチ (装着機種)
- 3 スパーク プラグ ターミナル
- 4 シャッター (夏季および冬季作業)
- 5 デコンプ バルブ
- 6 チェン ブレーキ
- 7 チェン スプロケット
- 8 チェン スプロケット カバー
- 9 チェン キャッチャー
- 10 サイド チェン テンショナー
- 11 バンパー スパイク
- 12 ガイド バー
- 13 オイルマチック チェン：
- 14 オイルフィルター キャップ
- 15 マフラー
- 16 前ハンド ガード
- 17 前ハンドル (ハンドルバー)
- 18 スターター グリップ
- 19 燃料タンク キャップ
- 20 マスター コントロール レバー
- 21 スロットル トリガー
- 22 スロットル トリガー ロックアウト
- 23 後ハンドル

24 後ハンド ガード

機械番号

31 技術仕様

31.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 ストロークエンジン

31.1.1 MS 362 C-M

排気量：	59.0 cc
シリンダー径：	47 mm
ピストンストローク：	34 mm
ISO 7293 に準拠したエンジン出力：	3.5 kW (4.8 bhp)/10,000 rpm
アイドル回転数： ¹⁾	2,800 rpm

31.2 イグニッションシステム

エレクトロニクスマグネットイグニッション

スパークプラグ (抵抗入タイプ)：	NGK CMR 6 H, BOSCH USR 4AC
電極ギャップ：	0.5 mm

31.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量：600 cc (0.6 l)

31.4 チェンの潤滑

全自動、回転数制御プランジャー式オイルポンプ
手動オイル吐出量調整機能付きオイルタンク容量：325 cc (0.325 l)
量：

31.5 重量

乾燥重量、バーとチェンを除く

MS 362 C-M：	5.6 kg
ハンドルおよびキャブレターヒーター付き MS 362 C-M：	5.8 kg

31.6 カッティングアタッチメント

実際の切断長は、規定の長さよりも短い場合があります。

31.6.1 ローロマチックガイドバー

バーの長さ (ピッチ 3/8")：37、40、45、50 cm
溝幅：1.6 mm

31.6.2 3/8" チェン

ラビットマイクロ (36 RM) 3652 型	
ラビットスーパー (36 RS) 3621 型	
ラビットスーパー 3 (36 RS3) 3626 型	
ピッチ：	3/8" (9.32 mm)
ドライブリンクゲージ：	1.6 mm

31.6.3 チェンスプロケット

3/8" (リムスプロケット)、7 枚歯
ISO 11681 に準拠した最大チェーンスピード：28.9 m/s
最大出力時のチェンスピード：21.7 m/s

31.7 騒音・振動数値

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。31.7.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}
106 dB(A)31.7.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル $L_{w eq}$
115 dB(A)31.7.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv, eq}$

左ハンドル：	3.5 m/s ²
右ハンドル：	3.5 m/s ²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。
指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

31.8 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (CHemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

31.9 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

¹⁾ ISO 11681 に準拠 (+/- 50 rpm)

32 スペア パーツのご注文

お客様のチェーンソーの機種、機械番号、およびガイドバーとソーチェンの部品番号を、下に準備したスペースにご記入ください。これは、次にご注文いただくときに便利です。

ガイドバー、ソーチェンは消耗部品です。これらの部品を注文するとき、型式、部品番号、部品名を明記してください。

機種

機械番号

ガイドバー部品番号

ソーチェン部品番号


33 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

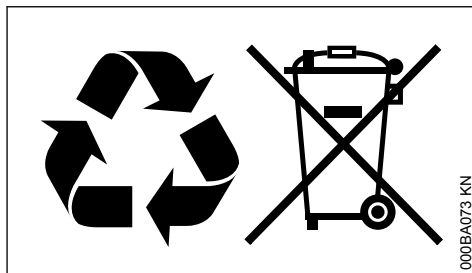
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

34 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

35 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、独占的な責任下で下記の製品が

名称：	チェーンソー
メーカー名：	STIHL
型式：	MS 362 C-M
	MS 362 C-MVW
	MS 362 C-M Z
シリーズ番号：	1140
排気量	59.0 cm ³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU および 2000/14/EC の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 11681-1、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値および確保数値共に、2000/14/EC の付録 V と規格 ISO 9207 に基づいています。

音響出力レベル測定値

117 dB(A)

音響出力レベル保証値

119 dB(A)

EC 型式検査の実施者：

DPLF

Deutsche Prüf- und Zertifizierungsstelle für Land- und Forsttechnik GbR (NB 0363)

Spremlerger Straße 1
D-64823 Groß-Umstadt

証明書番号：

K-EG -2009/5159

技術資料の保管場所：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

01.08.2022、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



36 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-154-4321-C



0458-154-4321-C